HITACHI

FLORA 220W NS4

3

ハードウェアを使いこなす

マニュアルはよく読み、保管してください。
・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
・このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

このマニュアルの使い方

このマニュアルでは、周辺機器の接続方法、日常のお手入れ、技術情報を説明しています。必要に応じてお読みください。

■「1 章　バッテリーを使う」
バッテリーの使い方について説明します。

■「2 章　周辺機器を接続する」
パソコンに周辺機器を接続する方法を説明します。

■「3 章　日常のお手入れ」
パソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。

■「4 章　技術情報」
パソコンの仕様、有償部品やオプション情報について説明します

マニュアルの表記について

重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
参照	参照先を示します。
CD/DVD ドライブ	このマニュアルでは、CD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブ、DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブをまとめて表記します。
HDD	ハードディスクドライブを表記します。
FDD	フロッピーディスクドライブを表記します。
FD	フロッピーディスクを表記します。

マニュアル内で使用している画面およびイラストは一例です。機種によっては、異なる場合があります。説明の都合で、画面のアイコンやイラストのケーブルなど、一部省略している場合があります。また、特に記述のない限り、画面はすべて Windows XP のものです。

もくじ

1 章

バッテリーを使う

この章では、バッテリーでパソコンを使う方法やバッテリーの上手な使い方について説明します。

バッテリーを取り付ける

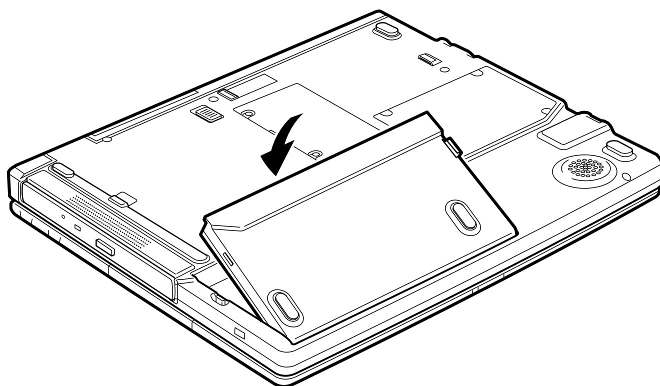
ここでは、バッテリーの取り付け方について説明します。バッテリーを取り付けると、コンセントのない所にもパソコンを持ち運んで使えます。バッテリーにはパソコンに内蔵するものと、外付けにするもの（オプション）があります。

パソコンに内蔵するバッテリー

取り付け手順

1 **パソコンの電源を切り、パソコンを裏返す。**

2 **バッテリー 1 を「カチッ」と音がするまで差し込む。**



取り外し手順

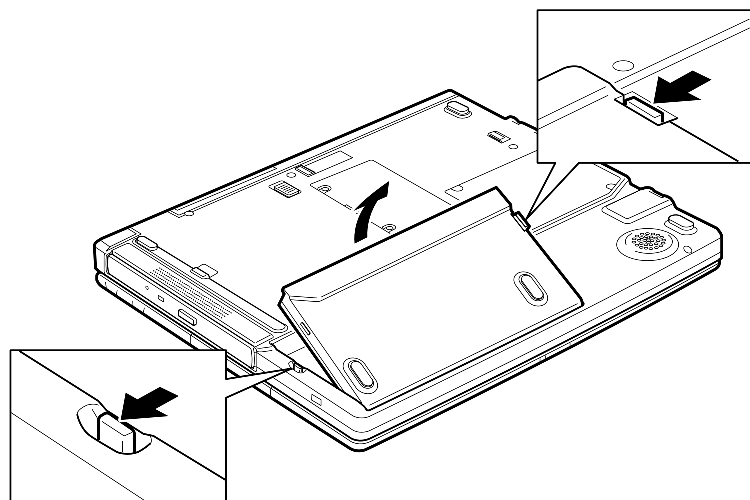
バッテリー 1 を取り付けたときの逆の手順で取り外します。

1 **電源を切り、AC アダプターを取り外してパソコンを裏返す。**

重要

◎ お買い求め直後のバッテリーは充電されていません。充電してからお使いください。また、長期間バッテリーを使わなかったときも定期的に 40% ぐらいまで充電してください。

2 バッテリーロック2つを図の方向へスライドさせたまま、バッテリーを取り外す。

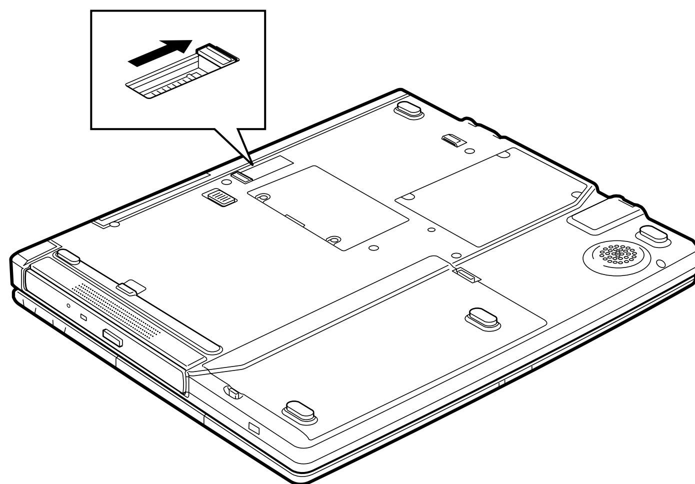


パソコンに増設するバッテリー

取り付け手順

1 パソコンの電源を切り、パソコンを裏返す。

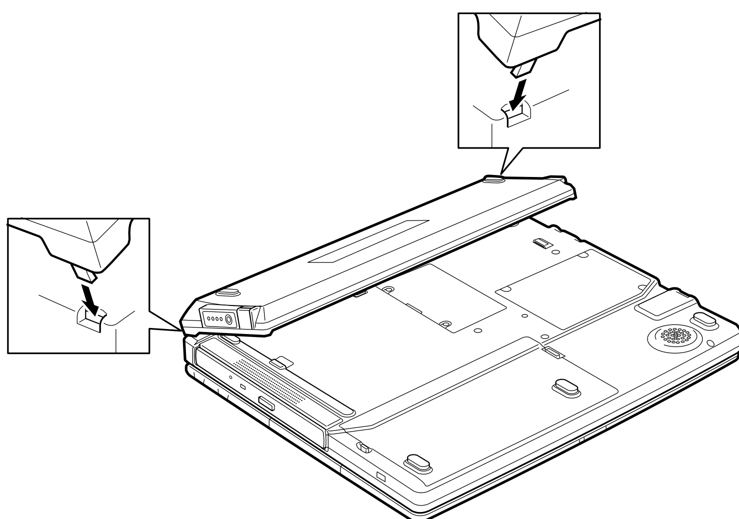
2 バッテリーコネクターのフタをスライドして開ける。



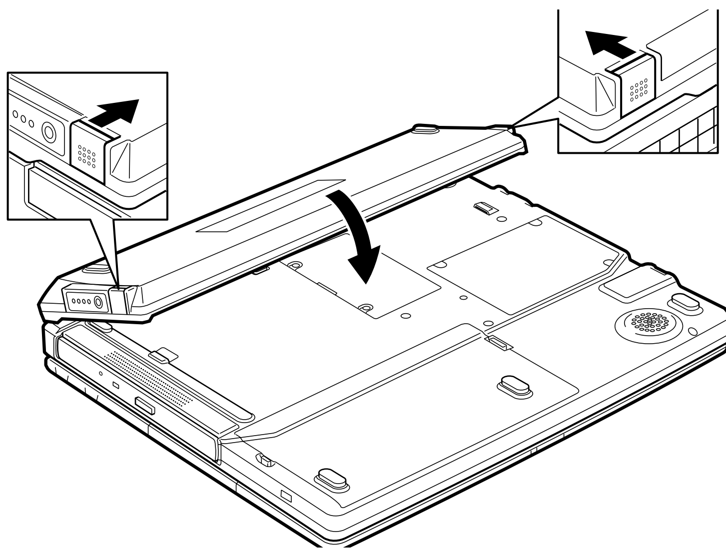
重要

◎ お買い求め直後のバッテリーは充電されていません。充電してからお使いください。また、長期間バッテリーを使わなかったときも定期的に 40% ぐらいまで充電してください。

3 バッテリー 2 のツメ 2 つをパソコン背面の穴に差し込む。



4 バッテリーロック 2 つを内側へスライドさせたまま、バッテリー 2 を「カチッ」と音がするまでパソコンに押し付ける。



ヒント

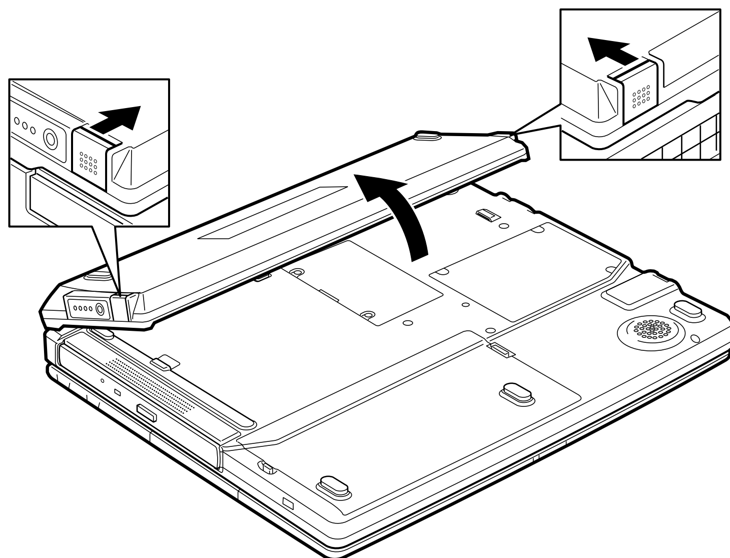
★ バッテリーロックが戻りにくい場合は、もう一度ロックを内側へスライドさせて取り付け直してください。

取り外し手順

バッテリー 2 を取り付けたときの逆の手順で取り外します。

1 **電源を切り、AC アダプターを取り外してパソコンを裏返す。**

2 **バッテリーロック 2 つを内側へスライドさせたまま、バッテリー 2 を取り外す。**



バッテリーの充電

バッテリーでパソコンを使うには、まずバッテリーを充電する必要があります。

1 **パソコンの電源を切り、バッテリーを取り付ける。**

2 **AC アダプターをパソコンに接続する。**

▼充電が始まる。充電中はバッテリーランプが橙色に点灯し、満充電になると緑色に点灯する。

充電時間

パソコンの使用状態と充電時間

220W NS4		パソコンの電源を切って充電	使用しながら充電（またはサスペンド）
Pentium III 1.20GHZ	バッテリー１	約 2.0 〜 3.0 時間	約 4.0 〜 5.0 時間
	バッテリー１ + バッテリー２	約 5.0 〜 7.0 時間	約 8.0 〜 10.0 時間
Celeron 1GHz	バッテリー１	約 2.0 〜 3.0 時間	約 4.0 〜 5.0 時間
	バッテリー１ + バッテリー２	約 5.0 〜 7.0 時間	約 8.0 〜 10.0 時間

警告

◎ バッテリーを充電するときは、必ず本パソコンに入れて充電してください。ほかの方法では電圧、充電時間などが異なる場合があり、破裂・発火などの原因になります。

参照

バッテリーの取り付け方→『パソコンを準備する』１章の「接続しよう」

重要

◎ 放電しきったバッテリーや充電せず長期間放置（過放電状態に）したバッテリーでは、充電できない場合があります。充電できる場合は、通常時に比べ、充電に時間がかかることがあります。また、バッテリーランプが消灯しても満充電にならない場合があります。Windows の電源メーターで確認し、充電が不十分な場合は、バッテリーを取り付け直して再充電してください。

ヒント

★ バッテリーの充電時間は、パソコンの使用環境、周辺機器の接続状況、バッテリーの劣化状態などに応じて異なります。

★ パソコンを使用できる環境（温度、湿度）でバッテリーを充電しないと、満充電にならないことがあります。

充電状態の確認

充電状態はバッテリーランプで確認します。

充電中

バッテリーランプが橙色に点灯

満充電

バッテリーランプが緑色に点灯
（バッテリー容量約 90 ～ 100%）

ヒント

★ 放電直後などでバッテリーの温度が高いと、バッテリーランプが点灯するまでに時間がかかることがあります。

★ AC アダプターでパソコン使用時、充電状態のバッテリーを取り付けていると瞬時停電にも対応できます。

重 要

◎ バッテリーランプが橙色に点滅した場合は、バッテリーと AC アダプターを一度外し、再度取り付けて充電してください。

バッテリーでの動作時間

ここでは、バッテリーの動作時間と動作時間を長くする方法について説明します。

バッテリーでの動作時間

220W NS4		動作時間 Windows 表示 *1	 DVD 再生時 *2	 JEITA 測定法 *3
Pentium III 1.20GHZ	バッテリー1	約 3.1 時間	約 2.0 時間	約 3.5 時間
	バッテリー1 + バッテリー2	約 6.6 時間	約 4.4 時間	約 7.2 時間
Celeron 1GHz	バッテリー1	約 3.2 時間	約 1.7 時間	約 3.3 時間
	バッテリー1 + バッテリー2	約 6.7 時間	約 3.8 時間	約 6.7 時間

＊1:Windows XP 環境で、Windows 表示のみで HDD、CD-ROM などのアクセスはしない状態です。Windows 2000、Windows 98 環境では記載値の約 80 〜 90% です。ディスプレイの輝度は出荷時の状態、バッテリーは出荷直後の状態です。なお、DVD 再生など高負荷での使用時では、休止状態に移行できないことがあります。またバッテリーをメインにご利用される方は、バッテリー 2 を併用してください。
上記の時間は目安であり、使用可能時間はバッテリーの使用状態及び測定温度条件によって、数十分程度異る場合があります。また、バッテリーを使い続けていくと使用可能時間は短くなっていきます。
＊2:DVD 再生などの高負荷での使用時では、休止状態に移行できないことがあります。
＊3:JEITA 測定法とは、社団法人 電子情報技術産業協会が制定したノート PC 共通の「バッテリー動作時間測定法 (Ver1.0)」です。
JEITA ホームページ：http://it.jeita.or.jp/mobile/
JEITA 測定法使用可能時間は、下記の設定を行なって測定しています。
1．節電機能設定 [電源オプションのプロパティ]
(1) [電源設定] を「バッテリの最大利用」設定しています。
(2) [電源設定] の [バッテリの最大利用の電源の設定] の時間設定すべてを「無し」に設定しています。
(3) [アラーム] の設定は［バッテリの低下アラーム］，［バッテリ切れアラーム］共に解除しています。
(4) [Intel(R)Speedstep(TM)technoology］の［バッテリで実行している場合］を、「バッテリの最大寿命」に設定しています。
(Windows 2000,Windows 98 の PentiumIII モデルのみ)
2．液晶輝度設定
(1) 測定法 A(MPEG 再生)
バッテリー駆動時輝度の最大輝度から５段目
(2) 測定法 B(Windows 表示)
バッテリー駆動時の最低輝度
(輝度の設定は液晶の使用状況及び、測定状況によって異なります。

重 要

◎ **定期的に完全放電を行わないとバッテリーでの動作時間が短くなります。**

動作可能時間を長くするには

バッテリーを長時間使用するには、次の方法で消費電力を抑えて節電してください。

節電機能を使う

節電機能を使うように設定しておくと、一定時間パソコンを操作しないでいると消費電力を抑えます。ディスプレイを閉じることでも節電機能が働きます。また、長い時間使わないときは、電源を切っておきます。

参照

節電機能の設定について→電子マニュアル『使い勝手を良くする』の２章「消費電力を節約する」

画面を静止させたり、画面の明るさを下げる

■画面を静止させる

スクリーンセーバーなどの画面保護機能を使うときは、「模様なし」（静止画）を選んでください。

■画面の明るさを下げる

[Fn] ＋ [F6]（☼－）キーを押してディスプレイの明るさを下げると、消費電力を抑えられます。

音量を下げる

スピーカーボリュームで音量を下げると、消費電力を抑えられます。

バッテリーの容量を確認する

ここでは、バッテリー容量の確認方法と、バッテリー容量がわずかになったときの設定について説明します。
どちらも Windows の [電源の管理] または [電源オプション] で行います。

[電源オプション]([電源の管理]) の開き方

1 [スタート]ボタン－([設定])－[コントロールパネル]をクリックする。

▼ [コントロールパネル] が表示される。

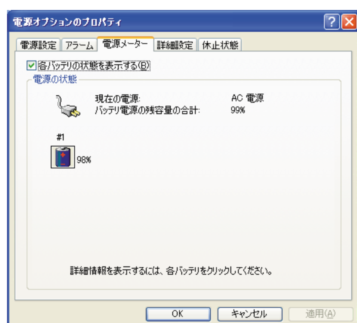
2 [電源オプション]([電源の管理]) をクリックする。

▼ [電源オプションのプロパティ]([電源の管理のプロパティ]) が表示される。

容量を確認する

1 [電源オプションのプロパティ]([電源の管理のプロパティ]) の [電源メーター] をクリックする。

▼ バッテリーの容量を確認できる。



Windows XP の場合



Windows 98 の場合

ヒント

★ OS によって [電源の管理] や [電源オプション] など名前や画面が多少異なります。ここでは、Windows XP/98 を例に説明します。

★ Windows XP の場合、[コントロールパネル] は [クラシック表示] で説明しています。

ヒント

★ Windowws XP の場合、[コントロールパネル] に [電源の管理] アイコンが表示されていないときは、「クラシック表示に切り替える」をクリックするか、「パフォーマンスとメンテナンス」のカテゴリを選択すると表示されます。

★ [電源メーター]（[バッテリメーター]）は、タスクバーの電池のアイコンをダブルクリックして開くこともできます。

★ 使用環境や動作状態などで容量の値が大きく変動したり正確な値が表示されないことがあります。

★ バッテリーを取り付けた直後は、実際の容量と表示される容量の誤差が大きく、一度、満充電にすると誤差は小さくなります。

★ 定期的に完全放電を行わないと正確な値が表示されません。

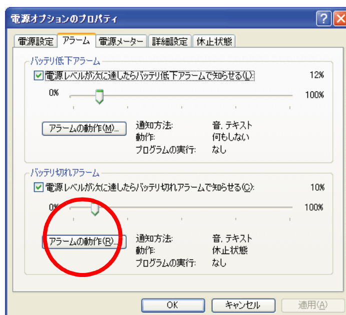
★ バッテリーが満充電でも 90 ～ 100%と表示されないことがあります。

バッテリーの容量が少なくなったときの設定

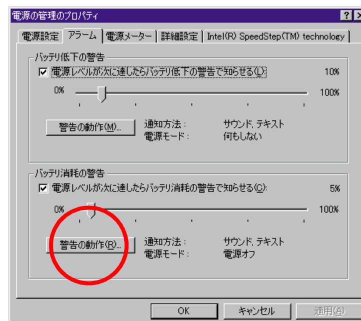
バッテリーの容量がわずかになったとき、パソコンをどうするかを設定できます。標準では、休止状態が働くように設定されています。
Windows 98 の場合は、「電源オフ」状態になるように設定されています。
このほかの設定は標準値のままお使いください。

1 **[電源オプションのプロパティ]([電源の管理のプロパティ]) の [アラーム] タブをクリックする。**

2 **「バッテリー切れアラーム」([バッテリ消耗の警告]) の [アラームの動作]（[警告の動作]) ボタンをクリックする。**

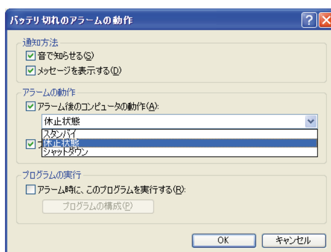


Windows XP の場合

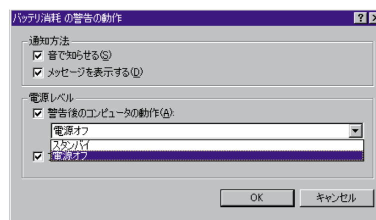


Windows 98 の場合

3 **「電源レベル」の「アラーム後のコンピュータの動作」（［警告後のコンピュータの動作]) にチェックを付け、[スタンバイ]、または [休止状態] を選び、[OK] ボタンをクリックする。**



Windows XP の場合



Windows 98 の場合

4 **[アラーム] タブで [適用] ボタンをクリックする。**

重要

◎ 定期的に完全放電を行わないと、バッテリーでの動作時間が短くなり、バッテリ低下アラームが早く動作することがあります。

◎ DVD などの高負荷で動作させた場合、休止状態に移行しない場合があります。

重要

◎ Windows 98 の場合は、[休止状態] を選べません。

上手にバッテリーを使う

ここでは、上手なバッテリーの使い方を説明します。

バッテリー 1(AB6600) に適した使用環境

バッテリー 1 を使用しているときは、動作条件に制限があります。主に次のような使用環境に適しています。
- 通常、AC アダプターでの使用が主で、停電時の復旧として使用の場合
- スタンバイ状態でのオフィス間の移動の際など、AC アダプターが使用できない時の状態保持として使用の場合
- 主に、低負荷での使用の場合（常に CPU に負荷の掛かる計算ソフトや、多数のアプリケーションを同時に実行できない）
- 寒冷地では、立ち上げた時の残量表示が極端に少なくなります。また充電ができない場合があります。その場合は、常温で放置した後に充電してください。

バッテリー 2（AB6610）の併用に適した使用環境

- 通常、モバイル環境（バッテリー）での使用がメインの場合
- バッテリー動作時間を長持ちさせたい場合

バッテリー使用前に、必ずバッテリーを充電する

バッテリーでのご使用の際は、事前に必ず充電してください。特に、バッテリーのみご使用で電源を入れる場合、立ち上げ時に多くの電力を消費しますので、残量が少ない場合では正常に電源が入らない場合があります。

過放電しない

満充電のバッテリーをパソコンに取り付け、AC アダプターを接続せずに 1ヶ月以上使用しないと過放電になります。また、残量の少ないバッテリーをパソコンに取り付けて 2～3 日放置すると、バッテリー容量が減ります。過放電したバッテリーは、充電が始まるまでに数時間かかったり、充電できる容量が少なくなります。また、過放電がひどくなると、そのバッテリーは使用できなくなることがあります。

ヒント

★ バッテリー 1 は、動作するアプリケーションの負荷が大きい場合、使用に制限を受けます。例えばバッテリー使用時にアプリケーションを多数動作させるような高負荷の使用条件では、バッテリー 2 の併用が必要になります。

重 要

◎ バッテリー1 を高負荷で使用した場合、動作時間が短くなるばかりでなく、バッテリー残量警告が表示される前に、バッテリー保護により電源が切れることがあります。

参照

使用環境について→ 4 章の「パソコンおよび周辺機器を使用する環境について」(P.66)

AC アダプターとバッテリーを付けたまま長時間放置しない

バッテリーが満充電になったら、AC アダプターとバッテリーを差したまま長時間放置しないでください。AC アダプターを差していても、バッテリーは少しずつ放電して容量が減ります。バッテリーを再度充電するには、AC アダプターまたはバッテリーを接続し直してください。

長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は充電する

バッテリーは使用しなくても少しずつ消費されています。バッテリーの残量を確認し、15% 以下であれば 40% 位まで充電してください。また、長期間使用しないときでも、1ヶ月に一度は 40% 位まで充電してください。

定期的に完全放電する

使い方によって、見かけ上の残容量が減り、使用時間が短くなることがあります。これを防ぐため、1ヶ月に 1 回程度、バッテリーを完全放電することをおすすめします。

1 **パソコンの電源を入れ、画面下部に「Press <F12>to enter Boot Menu 」と表示されたら、[F2] キーを押す。**

2 **セットアップメニューが立ち上がったら、AC アダプターを取り外し、バッテリー駆動にする。**

3 **バッテリーが切れ、パソコンの電源ランプが消灯するまで放置する。**

4 **放電完了後、バッテリーを充電する。**

重 要

◎ 完全放電は、バッテリーを一度満充電してから行ってください。

◎ 完全放電したまま放置しないでください。バッテリーが過放電状態になります。

2 章

周辺機器を接続する

この章では、周辺機器の接続方法と使用方法を説明します。

周辺機器接続時に必要な設定

ここでは、周辺機器を接続したときに必要な設定とその参照先をまとめてあります。なお、次の表で「必要な設定」が「なし」となっている場合でも周辺機器に付属のマニュアルを参照し、必要な場合は設定してください。

重要

◎ **接続する周辺機器には節電機能に対応していないものがあります。節電機能を使わないように設定してご使用ください。**

周辺機器	必要な設定	参照先
マウス テンキーボード	デバイスマネージャ ＊	―
プリンター	プリンタードライバー	プリンター付属のマニュアル
ディスプレイ	・表示ドライバーのセットアップ ＊ ・画面の設定 (必要に応じて) ・マルチディスプレイ表示	参照 電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」 参照 本章の「ディスプレイを複数接続する」(P.36)「マルチディスプレイ表示にする」(P.40)
マイク ステレオ スピーカー ヘッドホン	サウンドドライバーのセットアップ＊	参照『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
PC カード	割り込みの確保	―
モデム	モデムドライバーのセットアップ	参照『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
LAN	BIOS の設定＊	参照『使い勝手を良くする』4 章の「ドライバーを個別セットアップする」
USB 機器	デバイスマネージャ ＊	―
IEEE1394 機器	デバイスマネージャ ＊	―

＊標準 (パソコン出荷時の状態) で、セットアップまたは設定済みです。

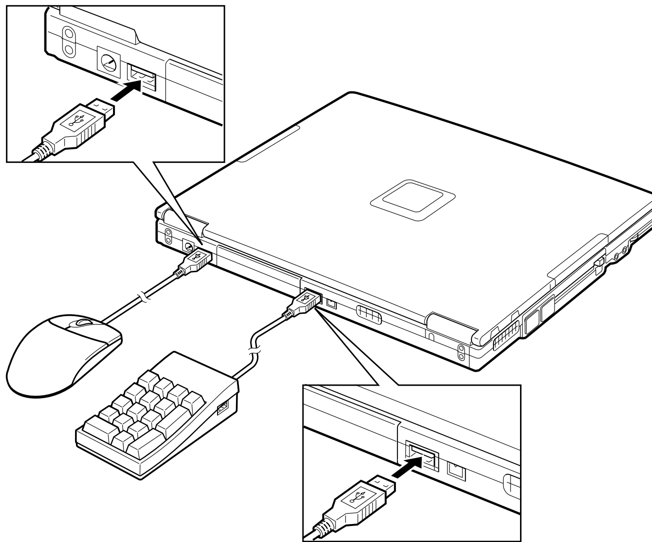
マウス、テンキーボード

ここでは、USB 仕様のマウスおよびテンキーボードの接続方法と、マウスの操作方法について説明します。

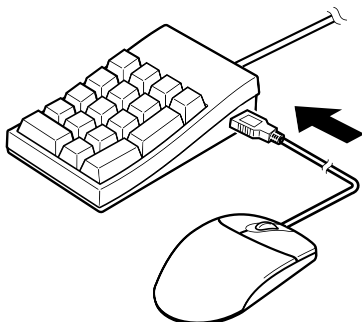
接続方法

Windows 98 で、ホイールマウスのスクロール機能を使うときは、接続後、ホイールマウスドライバーをインストールしてください。

1 パソコン背面の USB コネクターに、USB マーク（ ）が上側になるようにしてマウスとテンキーボードのケーブルを接続する。



テンキーボードの USB コネクターに、マウスのケーブルを接続することもできます。



参照

ホイールマウスドライバーのセットアップ（Windows 98 の場合）→電子マニュアル『使い勝手を良くする』3 章の「付属ソフトウェアの使い方」「ホイールマウスドライバー」

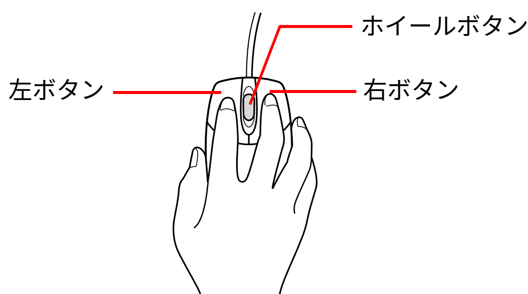
重要

◎ コネクターの金属部には触らないようにしてください。マウスが動作しなくなることがあります。接続時に触れそうなときは、静電気を取り除くか、綿手袋をしてください。

操作方法

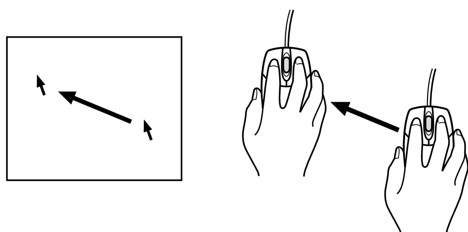
マウスの持ち方

マウスを右手のひらで包み込むように持ち、人差し指を左ボタンに、中指は右ボタンにかかるようにします。



マウスポインターの移動

マウスを動かすと、マウスの動きに合わせてマウスポインターが画面上を動きます。



ポイント

マウスを動かし、マウスポインターを移動し目的の位置に合わせることを、「ポイント」といいます。

重要

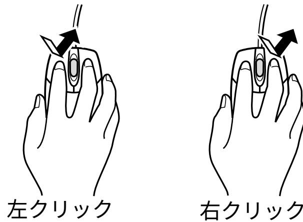
◎ マウスを落としたり、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。

◎ マウスケーブルを引っ張ったり、マウスをぶら下げて運んだりしないでください。

◎ マウスを凹凸がない水平な面で使用するときは、マウスパッドや紙などを敷いて使用してください。マウスは、ボールと滑走面との摩擦で動作するようになっているので、表面がツルツルした凹凸がない場所では正しく動作しないことがあります。

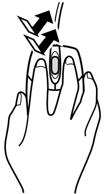
クリック

マウスのボタンを 1 回押します。



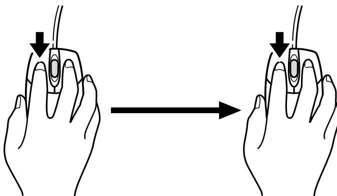
ダブルクリック

マウスの左ボタンを、2 回続けて押します。



ドラッグ

マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かします。



ドラッグアンドドロップ

アイコンなどを左ボタンを押して選び、ボタンを押したまま別の場所に移動して指をはなすことを、「ドラッグアンドドロップ」といいます。ファイルの移動やコピーなどに使います。

ヒント

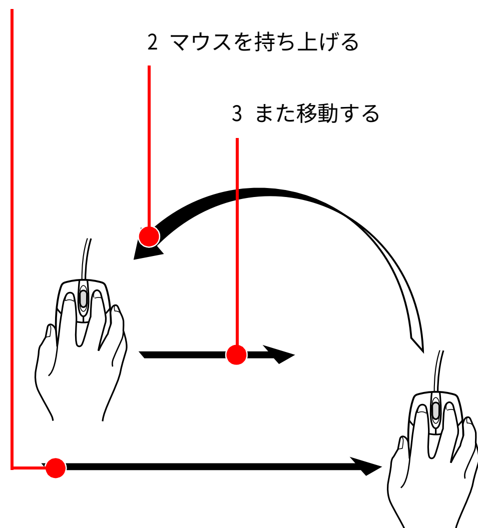
★ **ダブルクリックするときの速さは、［ マウスのプロパティ ］画面で調節できます。**

参照

マウスの設定の変更について→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1 章の「マウスを調整する」または［ポインティングパッド、マウスを調整する ］

狭い場所でマウスを使う

マウスポインターをもっと動かしたいのに、マウスを動かす場所がなくなってしまったら、いったんマウスを持ち上げて、元の場所からもう一度動かします。

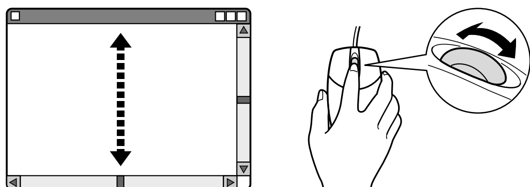


スクロールする

ウィンドウに表示されている内容を上下に移動して、見えない部分を表示することをスクロールといいます。
ホイールボタンを使うと、簡単にスクロールできます。

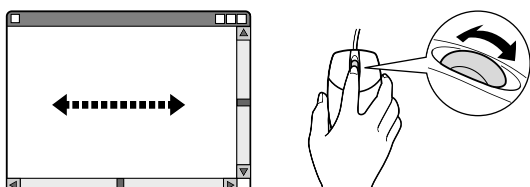
●縦にスクロールする

ホイールボタンを回転させると、縦にスクロールします。



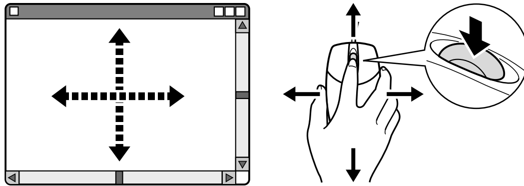
●横にスクロールする（Windows 98 のみ）

[Shift] キーと [Ctrl] キーを押しながらホイールボタンを回転させると、横にスクロールします。



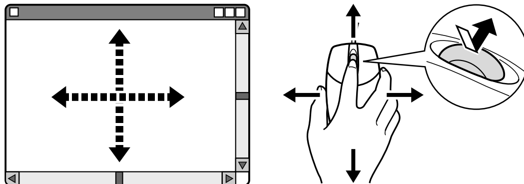
●好みのスピードでスクロールする

ホイールボタンを真下に押しながらマウスを上下左右に動かすと、好みのスピードでスクロールします。マウスの動きを止めても、ホイールボタンを離すまでスクロールは続きます。



●自在にスクロールする

ホイールボタンをクリックしたあと、マウスを上下左右に動かすと、マウスを動かした方向とスピードに合わせてスクロールします。マウスの動きを止めてもスクロールは続きます。もう一度ホイールボタンをクリックすると、スクロールが止まります。



ヒント

★「好みのスピードでスクロールする」と「自在にスクロールする」は、[マウスのプロパティ] の [ボタン] タブで、「自動スクロール」を設定した時の動作です。標準設定は、「自動スクロール」です。[ボタン] タブで、別の機能に変更できます。

★アプリケーションによっては、表示の拡大／縮小や、表示内容の変更を、ホイールを使ってできます。詳細は、マウスのプロパティのヘルプをご参照ください。例えば、インターネットエクスプローラの場合は、[Shift] キーを押しながら、ホイールを回転すると、Web 頁の [進む]、[戻る] ボタンと同じ動きをします。

ホイールボタンの使用について

■Windows XP、Windows 2000 の場合

- ホイール機能は、アプリケーションによっては、使用できないことがあります。
- 中央ボタン（ホイール）の機能割り当てやスクロール機能の詳細設定などはできません。
- [マウスのプロパティ] の [ボタン] タブで、「スクロールサイズ」を [画面単位]、[なし] には設定しないでください。ホイール機能が使用できなくなります。
- [マウスのプロパティ] の [ボタン] タブで、スクロール、オートスクロール、ユニバーサルスクロールのオプションを [Office 97 互換スクロールのみ有効] に設定すると、Office 97 互換でないアプリケーションではスクロールできなくなります。

■Windows 98 の場合

- ホイール機能は、アプリケーションによっては、使用できないことがあります。
- [マウスのプロパティ] の [ボタン] タブで、[MS Office 互換のスクロール機能のみ使用] にチェックを付けると、MS Office 互換でないアプリケーションではスクロールできなくなります。
- [マウスのプロパティ] の [ボタン] タブの各ボタンに割り当てられる機能で、ハイパージャンプなどのホイール機能以外の機能は、アプリケーションによって動作しないことがあります。

プリンターを接続する

ここでは、パラレルプリンターの接続方法、ドライバーのインストール方法･削除方法、使用するプリンターの選択方法について説明します。

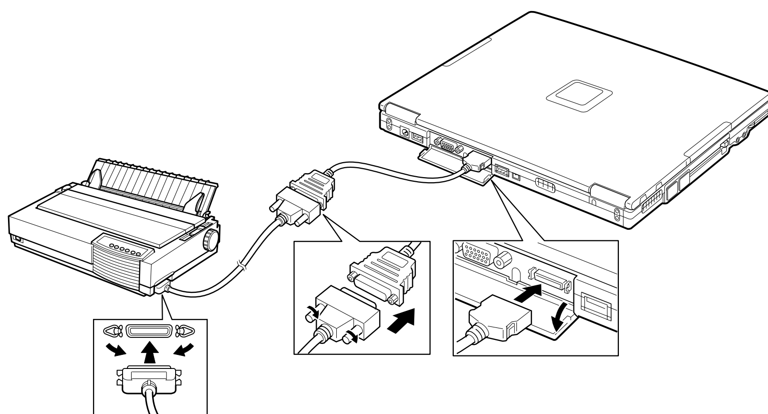
接続方法

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **パソコン背面のカバーを開け、プリンターインタフェースコネクターにパラレル変換ケーブルを接続する。**

3 **パラレル変換ケーブルとプリンターケーブルを接続する。**

4 **プリンターのコネクターにケーブルを接続し、バネ式ロックをかける。**
プリンターのモード設定や用紙のセットなどを行う場合は、パソコンの電源を入れてから行う。



ヒント

★ プリンターを接続するときは、別売のプリンターケーブルとパラレル変換ケーブルをお買い求めください。

参照

プリンターケーブルについて→ 4 章の「オプション一覧表」(P.59)

ヒント

★ SCSI アダプターなど、弊社のオプション機器以外の装置をプリンターインタフェースコネクターへ接続すると、正しく動作しないことがあります。

参照

接続できるオプションについて→ 4 章の「オプション一覧表」(P.59)

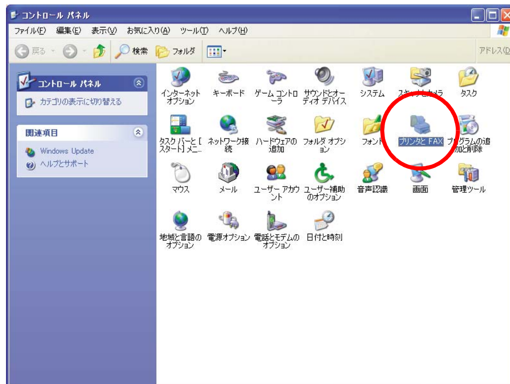
プリンタードライバーのインストール方法

プリンターを使用するには、ドライバーのインストールが必要です。
プリンタードライバーのインストールについては、プリンターに付属のマニュアルをご参照ください。

プリンタードライバーの削除方法

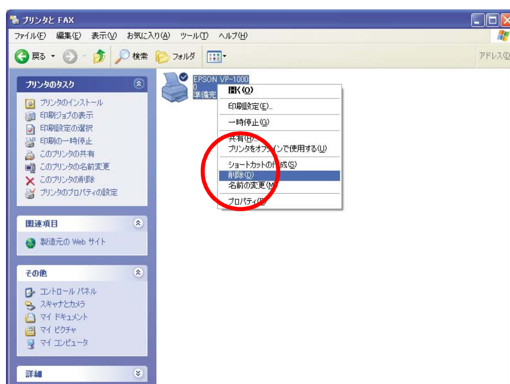
パソコンからプリンターを取り外し、Windows からプリンタードライバーを削除するときは、次のようにします。お使いのプリンターにドライバーを削除 (アンインスール) するユーティリティーがある場合は、そちらをお使いください。
次の説明は一般的な削除方法です。

1 **[スタート] ボタンー [コントロールパネル] ー [プリンタと FAX] をクリックする。**



▼ [プリンタと FAX] ウィンドウが表示される。

2 **削除するプリンターのアイコンを右クリックし、[削除]をクリックする。**



ヒント

★ [コントロールパネル] は、「クラシック表示」で説明しています。

★ Windows 2000、Windows 98 の場合は、[スタート] ボタンー [設定] ー [プリンタ] をクリックしてください。

3 メッセージが表示されたら、[はい] ボタン (または [OK] ボタン) を何度かクリックする。

使用するプリンターの選択

通常使うプリンターを設定する方法と、一時的に別のプリンターに切り替えて印刷する方法を説明します。

[通常使うプリンター] を設定する

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] － [プリンタと FAX] をクリックする。

▼ [プリンタと FAX] ウィンドウが表示される。

2 通常使うプリンターを右クリックし、[通常使うプリンタに設定] をクリックする。

▼ 以降、標準で印刷するプリンターは設定したプリンターになる。

使用するプリンターを一時的に切り替える

1 印刷を行うアプリケーションの[ファイル]メニューから[印刷]を選ぶ。

▼ [印刷] ダイアログボックスが開く。

2 プリンターのドロップダウンリストから、一時的に使用するプリンターを選び、[OK] ボタンをクリックする。

ヒント

★ 削除したプリンターが通常使うプリンターに設定されていたときは、通常使うプリンターを変更するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。

ヒント

★ [コントロールパネル] は、「クラシック表示」で説明しています。

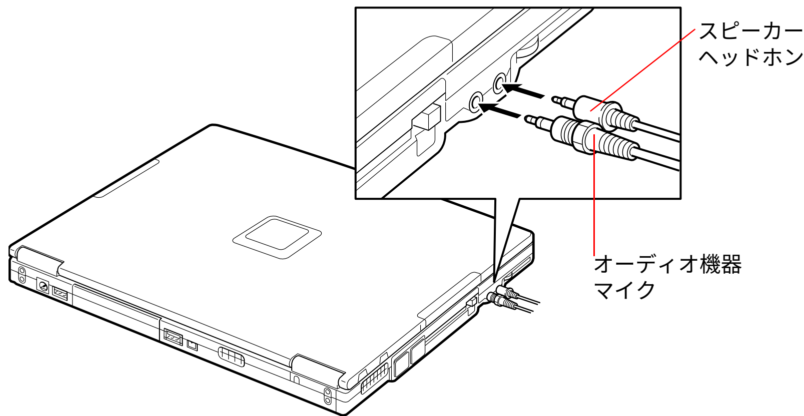
★ Windows 2000、Windows 98 の場合は、[スタート] ボタン－ [設定] － [プリンタ] をクリックしてください。

ヘッドホン、マイクを接続する

マイクを使って自分の声など外部の音声を録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。また、ヘッドホンやスピーカーで、音声データを再生したり、ゲームソフトの BGM なども楽しめます。

接続方法

1 **パソコン側面の各コネクターに、スピーカーやヘッドホン、マイク、オーディオ機器のコネクターを接続する。**



重 要

◎ ヘッドホンやイヤホンの使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。

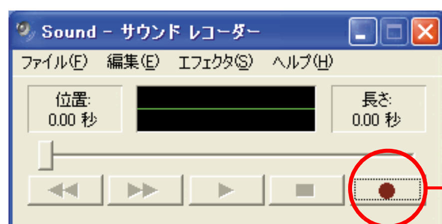
マイクを使って録音する

マイクを使って自分の声などを録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。
ここでは Windows の [サウンドレコーダー] を使って録音する方法を説明します。

1 [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム]([プログラム])ー[アクセサリ]ー[エンターテイメント]ー[サウンドレコーダー] の順にクリックする。

▼ [サウンドレコーダー] が立ち上がる。

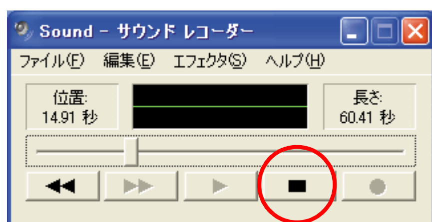
2 [録音] ボタンをクリックする。



[録音] ボタン

3 マイクに向かって話す。

4 [停止] ボタンを押す。



[停止] ボタン

参照

録音レベルの調整→電子マニュアル『使い勝手を良くする』1 章の「音量を調整する」

ヒント

★ 録音した音声は WAV 形式の音声データとして保存することができます。保存するときは、[ファイル] メニューの [名前を付けて保存] を選択してください。

重要

◎ マイクの録音レベルを上げすぎると、音声が歪んだり、ハウリングすることがあります。適度なレベルに調整してお使いください。

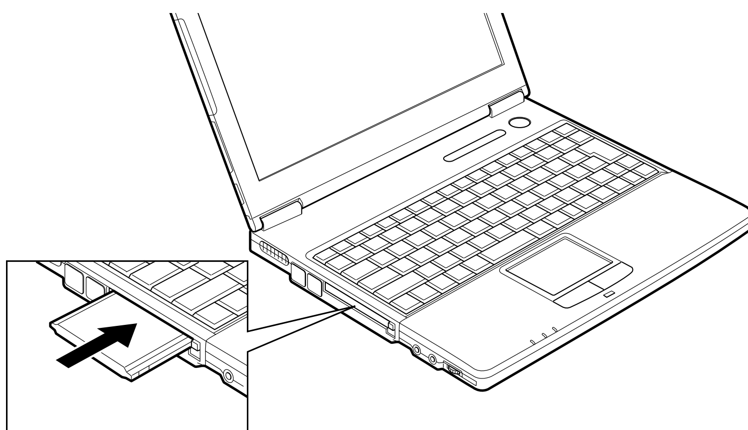
PC カード

このパソコンには、Card Bus ／ JEITA Ver 4.2 ／ PCMCIA2.1 仕様の PC カードを 1 枚接続できます。PC カードを接続することで、SCSI 機器などを使用できます。あらかじめ付属のマニュアルを読み、取り付け可能であることをご確認の上、取り付けてください。

取り付け手順

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **PC カードの表側を上にし、水平にまっすぐ奥までしっかりと PC カードを差し込む。**



参照

セットアップについて→電子マニュアル『使い勝手を良くする』4 章の「アプリケーションを個別セットアップする」

重要

◎ PC カードによっては、CardWizard がセットアップされていると正しく動作しないものもあります。PC カードの取扱説明書または購入先にご確認ください。

◎ TypeIIIのPCカードは厚いため、接続できません。

◎ PC カードはパソコンの電源を切って取り付けてください。電源が入った状態で取り付け／取り外しのできる PC カードもありますが、PC カードによっては正常に動作しないこともあります。

◎ PC カードは、カードの表側を上にして取り付けてください。逆に入れると、コネクターが壊れるおそれがあります。

◎ PC カードは、水平にまっすぐ入れてください。斜めに入れると、奥まで差し込めないことがあります。

取り外し手順

Windows XP、Windows 2000 の場合

1 **[タスクバー] の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコンをダブルクリックする。**

Windows 2000 の場合は、[タスクバー] の [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコンをダブルクリックする。



▼ [ハードウェアの安全な取り外し] 画面が表示される。

2 **[ハードウェア デバイス] から取り外すデバイスを選択し、[停止] ボタンをクリックする。**

3 **[ハードウェア デバイスの停止] 画面が表示される。**

4 **取り外す PC カードであることを確認して [OK] ボタンをクリックする。**

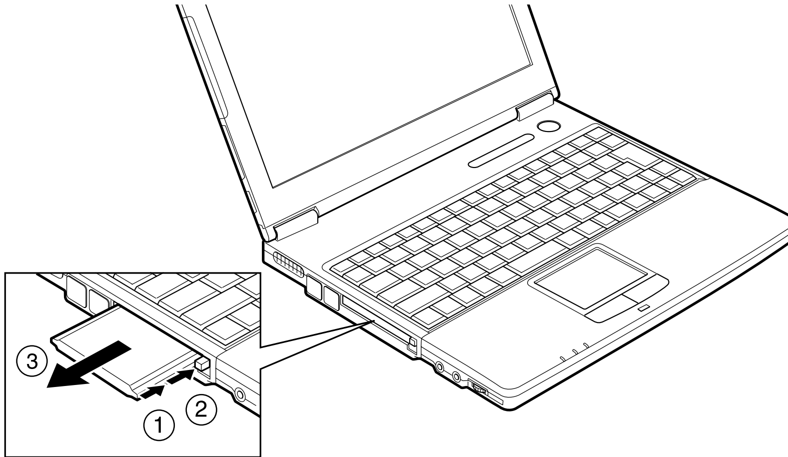
5 **[' XXX ～ ' は安全に取り外すことができます。] 画面が表示され、タスクトレー上にバルーン表示される。**

Windows 2000 の場合、「' XXX ～ ' は安全に取り外すことができます。」画面が表示される。

6 **[OK] ボタンをクリックして [ハードウェアの安全な取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。**

Windows 2000 の場合は、[OK] ボタン－ [ハードウェアの取り外し] 画面で、[閉じる] ボタンをクリックする。

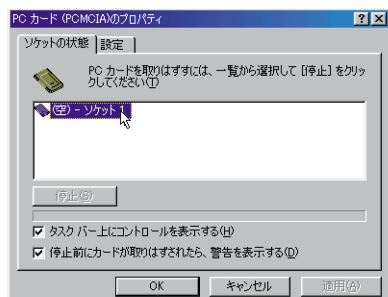
7 **取り出す PC カードのイジェクトボタンを指で押す。出てきたイジェクトボタンを押す。PC カードが少し出てくるので取り出す。**



Windows 98 の場合

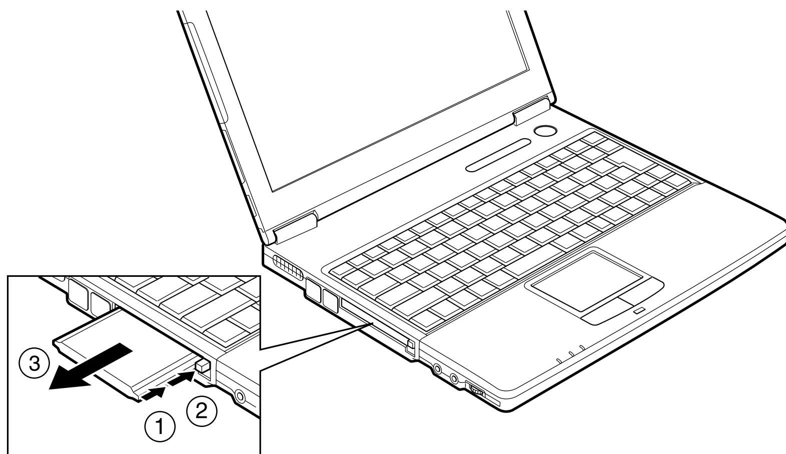
1 **[コントロールパネル] の [PC カード (PCMCIA)] をダブルクリックしてプロパティーを開く。**

2 **[ソケットの状態] タブで、「ソケット 1」をクリックして [停止] ボタンをクリックする。**



3 **PC カードのイジェクトボタンを指で押す。**

4 **出てきたイジェクトボタンを押す。PC カードが少し出てくるので取り出す。**

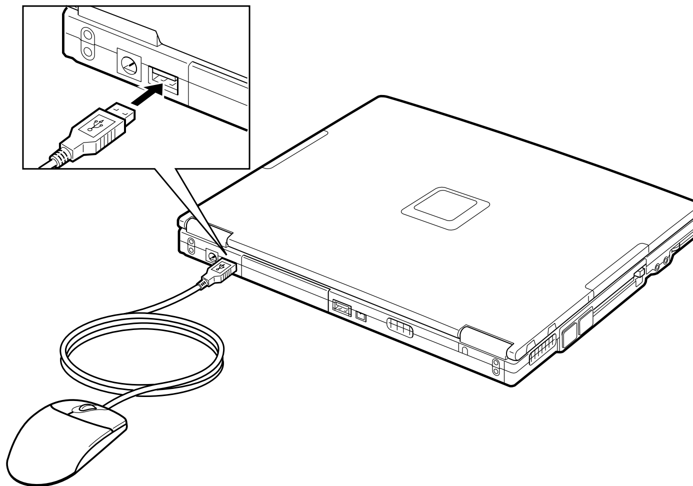


USB 機器を接続する

このパソコンにはUSB(Universal Serial Bus)機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご参照ください。

接続方法

1 パソコン背面の USB コネクターのどちらかに USB マーク（ ）が上側になるようにして USB ケーブルを差し込む。



ヒント

★ パソコンの電源を入れた状態でも接続できます。

★ USB 機器を使用するには、[デバイスマネージャ」で USB コントローラーを使用できるように設定する必要があります。標準で使用できるように設定してあります。

重要

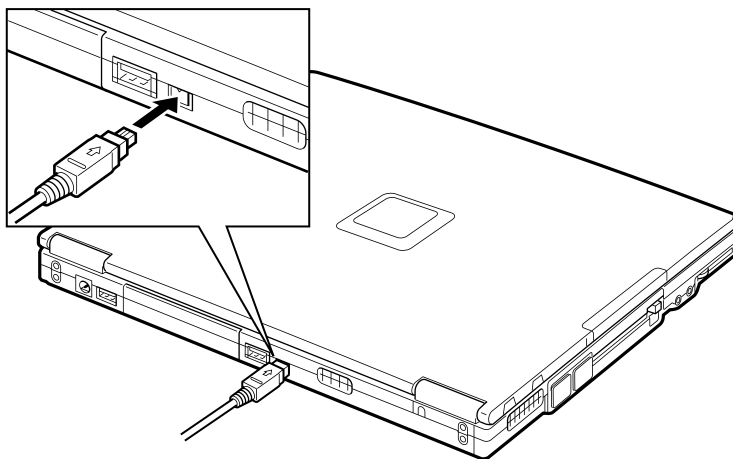
◎ 本体中央部の USB コネクターは、もう一方の USB コネクターよりも外側に位置しています。このため、USB 機器を接続した場合、本体ケースと挿入したコネクターとの間に隙間が開いているように見えますが、正常にご使用できます。

IEEE1394 機器を接続する

このパソコンには IEEE1394 機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、IEEE1394 機器のマニュアルをご参照ください。

接続方法

1 **パソコン背面の IEEE1394 コネクターに、4 ピンの IEEE1394 ケーブルを差し込む。**



ヒント

★ パソコンの電源を入れた状態でも接続できます。

★ IEEE1394 機器を使用するには、[デバイスマネージャ」で 1394 バスホストコントローラを使用できるように設定する必要があります。標準で使用できるように設定してあります。

★ 6 ピンの IEEE1394 ケーブルは接続できません。市販の変換ケーブルを使用してください。

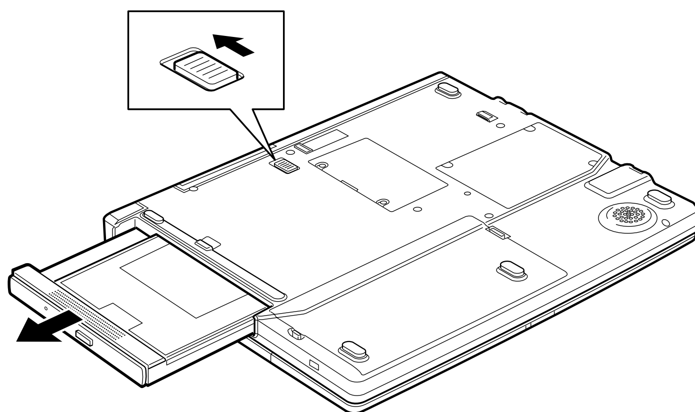
マルチパーパスベイ

マルチパーパスベイには、CD/DVD ドライブを接続できます。
ここでは、CD-ROM と DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブを例に入れ替える方法を説明します。

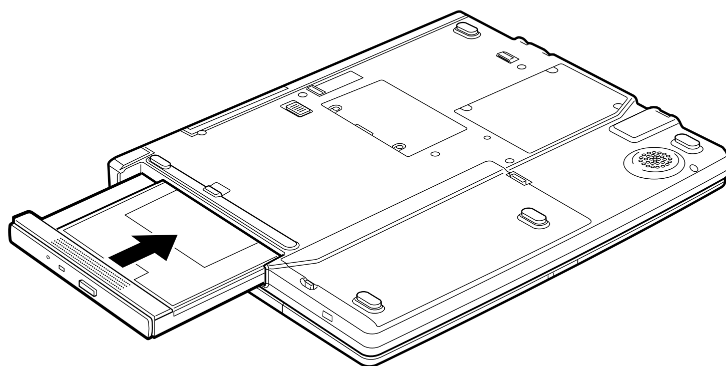
接続方法

1 パソコンの電源を切り、パソコンを裏返す。

2 マルチパーパスベイロックを引いたまま CD-ROM ドライブを取り外す。



3 DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブを取り付ける。



重要

◎ ドライブなどを取り付ける場合は、ドライブの中央をゆっくり押してカチッと音がするまで水平に押し込んでください。端を押して斜めに入れると壊れる場合があります。

◎ スタンバイ、または休止に移行した状態で、ドライブの変更及び取り外しを行わないでください。正常に動作しなくなる場合があります。

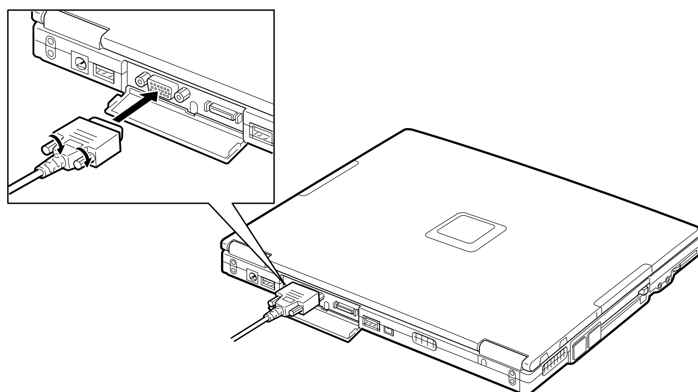
ディスプレイを複数接続する

外付けディスプレイを接続すると、パソコンと外付けディスプレイに同じ画面を表示（同時表示）できます。さらに、Windows XP、Windows 98 の場合は、1 つの画面を 2 台のディスプレイで、広げて表示（マルチディスプレイ表示）できます。

接続方法

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **パソコン背面のカバーを開け、ディスプレイインタフェースコネクターに外付けディスプレイのケーブルを接続する。**



重要

◎ Windows 2000 では同時表示のみを行うことができます。

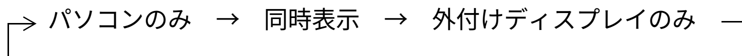
◎ 外付けディスプレイを取り外す場合、画面の解像度を 1024 × 768 以下に設定してから取り外してください。Windows が正常に立ち上がらなくなります。

表示先を切り替える

画面表示は、パソコンのみ、外付けディスプレイのみ、同時表示に切り替えることができます。

キーで切り替える

[Fn] キーを押しながら、[F5] キーを押します。押すたび、次のように表示先が切り替わります。



[画面のプロパティ] で切り替える

ここでは、外付けディスプレイにのみ表示させる方法を例に説明します。

■Windows XP、Windows 2000 の場合

1 **[スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] を開き、[画面] アイコンをダブルクリックする。**

Windows 2000 では、[スタート] ボタン－ [設定] － [コントロールパネル] － [画面] アイコンをダブルクリックする。

▼ [画面のプロパティ] 画面が表示される。

2 **[設定] タブをクリックし、[詳細設定] ボタンをクリックする。**

Windows 2000 では、[詳細] ボタンをクリックする。



▼ [ﾌﾟﾗｸﾞ ｱﾝﾄﾞ ﾌﾟﾚｲ ﾓﾆﾀと Intel(R) 82830M Graphics Controller-...] 画面が表示される。

重 要

◎ 外付けディスプレイが未接続の場合は切り替わりません。

◎ キーでの画面表示の切り替えは、パソコンを外付けディスプレイがサポートする解像度と色数の範囲以内に設定後にしてください。

◎ マルチディスプレイ表示に設定している場合、キーでの切り替えはできません。

◎ 表示先をパソコンのみ、または同時表示に切り替える場合は、画面の解像度を 1024 × 768 以下に設定してから行ってください。

3 [Intel(R) Graphics Technology] タブをクリックし、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面が表示される。



4 [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面の [デバイス] タブ上の [PC モニタ] アイコンをクリックする。

▼ [PC モニタ] アイコンに赤いチェックが付く。

5 [デバイス] タブ上の [設定] を次のように設定し、[OK] ボタンをクリックする。

設定　　色：True Color
画面領域：1024 × 768
リフレッシュレート：60Hz

▼ [デスクトップ変更の確認] 画面が表示される。

6 外付けディスプレイに表示されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

■Windows 98 の場合

1 外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。

2 [コントロールパネル] の [画面] アイコンをダブルクリックし、[設定] タブをクリックする。

▼ [画面のプロパティ] 画面が表示される。

3 [詳細] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller-...のプロパティ]画面が表示される。

重 要

◎ 外付けディスプレイがサポートしない解像度と色数に設定はしないでください。

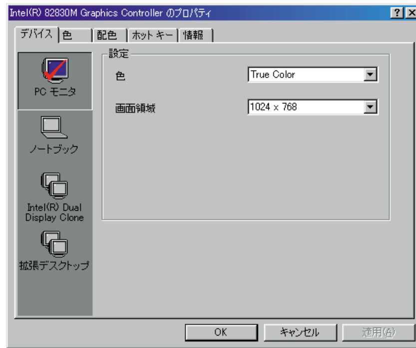
重 要

◎ 画面表示の切り替えは、パソコンを外付けディスプレイがサポートする解像度と色数の範囲以内に設定後にしてください。

4 [Intel(R) Graphics Technology] タブをクリックし、[グラフィックスのプロパティ] ボタンをクリックする。

5 [デバイス] タブ中の、[PC モニタ] アイコンをクリックする。

▼ [PC モニタ] アイコンに赤いチェック印が付く。



6 [適用] ボタンをクリックし、外付けモニターに表示されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

マルチディスプレイ表示にする

パソコンと外付けディスプレイでデスクトップ領域を広げて表示できるマルチディスプレイ (またはマルチモニター) 表示の設定を説明します。
Windows XP、Windows 98 の場合、マルチディスプレイ表示ができます。

■Windows XP の場合

1 外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。

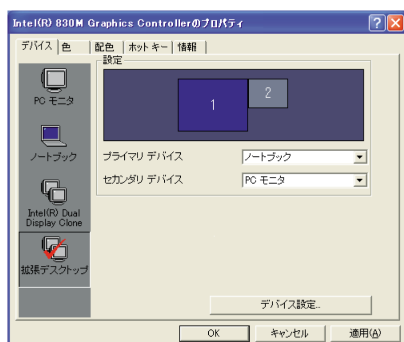
2 [コントロールパネル] の [画面] アイコンをダブルクリックし、[設定] タブをクリックする。

▼ [画面のプロパティ] 画面が表示される。

3 [詳細設定] ボタンをクリックし、[Intel(R) Graphics Technology] タブ中の、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面が表示される。

4 [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面の [デバイス] タブ中の [拡張デスクトップ] のアイコンをクリックする。



▼ [拡張デスクトップ] アイコンに赤いチェックが付く。

5 [デバイス設定] ボタンをクリックする。

▼ [デバイス設定] 画面が表示される。

ヒント

★ マルチディスプレイ表示にしたときは、[Fn] + [F5] キーを押しても、画面表示は切り替わりません。

重要

◎ Windows 2000 の場合、マルチディスプレイ表示できません。マルチディスプレイに設定しないでください。

◎ マルチディスプレイ表示で、3D スクリーンセーバーをプレビューすると、IME ツールバーが点滅表示される場合があります。

◎ アプリケーションによっては、マルチディスプレイ表示のセカンダリディスプレイに移動すると、正常に表示されない場合があります。その場合、プライマリディスプレイで表示させてください。

◎ マルチディスプレイでご利用中、画面の解像度、色の設定変更を行わないでください。正常に動作しなくなる場合があります。

6 [ノートブック (プライマリ)] の [設定]、[モニタ (セカンダリ)] の [設定] をそれぞれ次のように設定し、[OK] ボタンをクリックする。

設定　　色：High Color
**　　　　画面領域：1024x768**

▼ [IntelR 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面に戻る。

7 [OK] ボタンをクリックする。

▼ [デスクトップの変更の確認] が表示される。

8 外付けモニタに画面が広がり、マルチディスプレイに設定されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

重 要

◎ Windows XP でマルチモニタに設定した場合、[モニタの電源を切る] を設定しても、外付けディスプレイがモニターOFF しない場合があります。

■Windows 98 の場合

1 外付けディスプレイ、パソコンの順に電源を入れる。

重 要

◎ 「プラグ アンド プレイモニタを自動的に検出する」にチェックをしてから、外付けディスプレイを接続し、電源を入れてください。

2 [コントロールパネル] の [画面] アイコンをダブルクリックし、[設定] タブをクリックする。

▼ [画面のプロパティ] 画面が表示される。

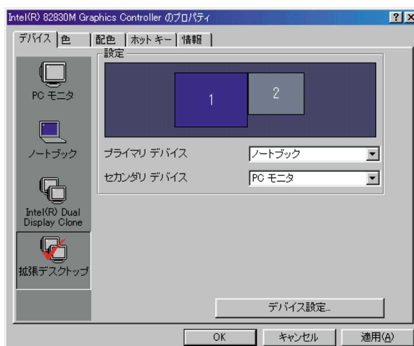
3 [詳細] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller-...のプロパティ] 画面が表示される。

4 [Intel(R) Graphics Technology] タブをクリックし、[グラフィックスのプロパティ] ボタンをクリックする。

5 [デバイス] タブ中の、[拡張デスクトップ] アイコンをクリックする。

▼ [拡張デスクトップ] アイコンに赤いチェックが付く。



6 **[適用] ボタンをクリックし、外付けディスプレイに画面が広がり、マルチディスプレイに設定されたことを確認し、[OK] ボタンをクリックする。**

同時表示にする

マルチディスプレイ表示から同時表示にする手順を説明します。

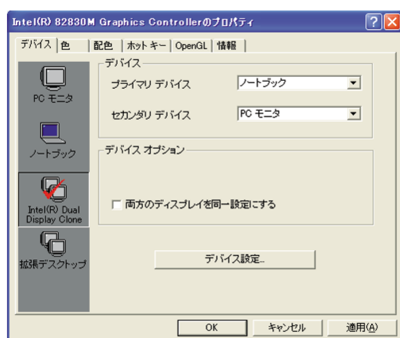
■Windows XP、Windows 2000 の場合

1 **マルチディスプレイ表示の設定と同じ手順で [画面のプロパティ] を表示し、[設定] タブを開く。**

2 **[詳細設定] ボタンをクリックし、[Intel(R) Graphics Technology] タブ中の、[グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。**

Windows 2000 では、[詳細] ボタン－ [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

3 **[Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] タブ上の [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする。**



▼ [Intel(R) Dual Display Clone] に赤いチェックが付く。

4 **[デバイス設定] ボタンをクリックする。**

▼ [デバイス設定] 画面が表示される。

重要

◎ 外付けディスプレイがサポートしない解像度と色数に設定しないでください。

ヒント

★ [(既定のモニタ) と Intel(R) 82830M Graphics Controller-* のプロパティ] に [Intel(R) Graphics Technology] タブが表示されない場合、[画面のプロパティ] を一度閉じ、再度表示させてください。

5 [ノートブック（プライマリ）] の [設定]、[モニタ（セカンダリ）] の [設定] をそれぞれ次のように設定し、[OK] ボタンをクリックする。

ノートブック（プライマリ） 色：High Color
画面領域：1024 × 768
モニタ（セカンダリ） リフレッシュレート：60HZ

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面に戻る。

6 [OK] ボタンをクリックする。

▼ [デスクトップの変更の確認] が表示される。

7 同時表示に設定されたことを確認して、[OK] ボタンをクリックする。

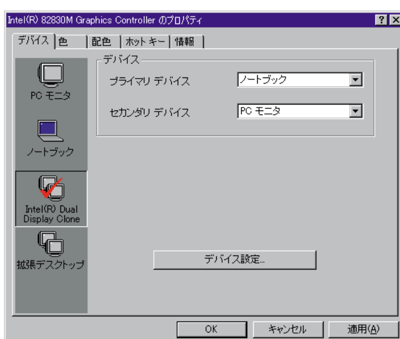
■Windows 98 の場合

1 マルチディスプレイ表示の設定と同じ手順で [画面プロパティ] を表示し、[設定] タブを開く。

2 [詳細] ボタンをクリックし、[Intel(R) Graphics Technology] タブ中の [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする。

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面が表示される。

3 [デバイス] タブ上の [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリックする。



▼ [Intel(R) Dual Display Clone] に赤いチェックが付く。

4 [デバイス設定] ボタンをクリックする。

▼ [デバイス設定] 画面が表示される。

重 要

◎ 外付けディスプレイがサポートしない解像度と色数に設定しないでください。

◎ 同時表示設定時は、パソコン、外付けディスプレイの解像度を 1024 × 768、画面の色を High Color に設定してください。

5 **[ノートブック（プライマリ)] の [設定] を次のように設定し、[OK] ボタンをクリックする。**

ノートブック（プライマリ） 色：High Color
画面領域：1024 × 768

▼ [Intel(R) 82830M Graphics Controller のプロパティ] 画面に戻る。

6 **[OK] ボタンをクリックする。**

▼ [デスクトップの変更の確認] が表示される。

7 **同時表示に設定されたことを確認して、[OK] ボタンをクリックする。**

解像度

マルチディスプレイ表示で設定するディスプレイ１とディスプレイ２の解像度は、次の組み合わせに従って設定してください。また各ディスプレイの色数は同じ値に設定してください。

ディスプレイ 1 の解像度	ディスプレイ 2 の解像度
640 × 480 *1	640 × 480 *1
	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024 *2
800 × 600	640 × 480 *1
	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024 *2
1024 × 768	640 × 480 *1
	800 × 600
	1024 × 768
	1280 × 1024 *2

＊ 1:Windows XP では、解像度 640 × 480 は表示できません。
＊ 2:外付けディスプレイのみ設定可能です。

その他の周辺機器を接続する

通常、プラグアンドプレイ機能に対応している周辺機器を接続したとき、自動的に Windows が環境を設定します。プラグアンドプレイ機能に対応していない周辺機器を接続する場合は、[ハードウェアの追加ウィザード] を使って手動で環境を設定します。
[ハードウェアの追加ウィザード] を使う前に、周辺機器に付属しているマニュアルをよくお読みください。そのマニュアルに操作手順が記載されている場合は、そちらの手順を行ってください。

ヒント
★ メモリーの増設などでは、環境を設定する必要はありません。
★ 周辺機器の取り付け / 取り外しについては、この章や周辺機器に付属のマニュアルをご参照ください。

1 **パソコンの電源を切る。**

2 **電源プラグをコンセントから抜き、周辺機器を接続する。**

3 **必要に応じて、周辺機器の電源を入れる。**

4 **パソコンの電源を入れる。**

ヒント
★ USB 機器のように、パソコンの電源が入ったままでも接続できる周辺機器もあります。

5 **[コントロールパネル] の [ハードウェアの追加] アイコンをダブルクリックする。**

▼ [ハードウェアの追加ウィザード] が表示される。

6 **手順に従い [次へ] ボタンをクリックする。**

▼ 新しい周辺機器の検出が始まる。

7 **しばらくすると、「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました」と表示される。**

ヒント
★ メッセージが表示されず、増設した周辺機器が見つからない場合があります。[次へ] ボタンをクリックし、周辺機器に付属のマニュアルを参照するなどして手動で設定してください。

8 **[完了] ボタンをクリックする。**

▼ 検出された周辺機器のドライバーがインストールされる。

3 章

日常のお手入れ

この章では、パソコンの各部分のお手入れについて説明します。

お手入れ

ここではパソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。パソコンのお手入れをするときは、パソコンの電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。またバッテリーを取り付けているときは、バッテリーも取り外してください。

パソコン

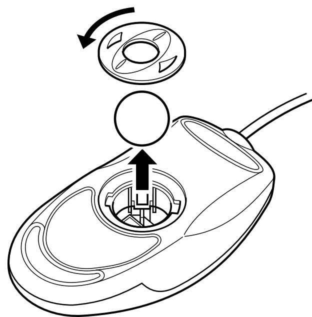
パソコンが汚れたときは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水か中性洗剤で湿らせた布を固く絞って拭くか、オフィスクリーナーなど、市販の専用クリーナーをお使いください。

マウス

1～3カ月に1回はマウスをクリーニングすることをお勧めします。また、ボールにゴミが付着するなどして正しく動かないときは、クリーニングをしてください。

クリーニング手順

1 **マウス底面の中央にあるフタを図のように反時計回りに回す。**
フタを外して、中のボールを取り出す。



2 **ボールを中性洗剤を薄めた水で洗う。**

3 **乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾燥させる。**

重要

◎ シンナーやベンジン、化学雑巾は使わないでください。パソコンの表面が変質するおそれがあります。

重要

◎ 専用クリーナーは、このパソコンのお買い求め先、またはパソコンショップでご購入ください。

ヒント

★ ボールは中性洗剤を薄めた水で洗ってください。漂白剤、シンナー、ワックス、クリーム、油剤などは使用しないでください。
また、化学雑巾やワックスが付いた布でボールを拭かないでください。ワックスなどの皮膜が付着するとボールがスリップする原因になります。

4 **乾いた布でマウスの内部や、内部のローラーのゴミやホコリを取り除く。**

5 **マウスにボールを入れ、取り外したときと逆の手順でフタを取り付ける。**

FDD

FDD は長期間使用しているとヘッドが汚れ、データを読み書きする際にエラーが発生しやすくなります。1 ～ 3 カ月に 1 回は市販のクリーニングキットでクリーニングをすることをお勧めします。クリーニングの方法については、クリーニングキット付属のマニュアルをご参照ください。付属のマニュアルがない場合は、次の手順を行ってください。

ヒント

★ クリーニングキットは乾式･湿式両方とも使用できます。

★ クリーニングキットは、このパソコンのお買い求め先、またはパソコンショップでご購入ください。

クリーニング手順

1 **[スタート] ─ [(すべての) プログラム] ─ [アクセサリ] ─ [コマンド プロンプト] をクリックする。**

Windows 98 の場合は、[スタート] ─ [プログラム] ─ [MS-DOS プロンプト] をクリックする。

▼ [コマンド プロンプト]([MS-DOS プロンプト]) ウィンドウが表示される。

2 **クリーニングディスクを FDD に挿入する。**

3 **クリーニングするドライブに対して、dir と半角で入力し、[Enter] キーを押す。**

▼ エラーが表示される。

ヒント

★ クリーニングするドライブのドライブが（A）の場合、入力は「dirA:」になります。

4 **手順 3 に戻り、これを 4、5 回繰り返す。**

Windows 98 の場合、表示されるメッセージに従って、[R] キーを押す。

5 **Windows 98 の場合、表示されるメッセージに従って、[A] キーを押して終了する。(Windows XP、Windows 2000 の場合は行なわない。)**

6 **exit と半角で入力し、[Enter] キーを押す。ウィンドウが消える。**

CD/DVD ドライブ

データ読み込み時にエラーが頻繁に発生する場合は、市販のクリーニングディスクを用い、クリーニングしてください。クリーニングの方法は、クリーニングディスク付属のマニュアルをご参照ください。

重要

◎ **クリーニング液を使用する湿式レンズクリーナーは、使用しないでください。ドライブ内部のレンズを傷つける原因になります。**

ヒント

★ **クリーニングディスクは、パソコンショップでご購入ください。**

4 章

技術情報

この章では、パソコンのシステム構成および仕様について説明します。

ドライブとディスクの仕様

CD-ROM ドライブの仕様

項目	仕様
形名	UC6400
読み込み速度　＊	最大 24 倍速
読み込み方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz（± 3dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	LED
バッファメモリー	128KB
転送レート	最大 3600KB/s
質量	約 210g

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

・ CD-DA(オーディオ CD)
・ CD-ROM(mode1、mode2)
・ CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
・ PhotoCD(シングル / マルチセッション)
・ CD-EXTRA(CD-Plus)
・ VIDEO CD
・ CD-R/RW

重要

◎ **使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。**

CD-R/RW ドライブの仕様

項目	仕様
形名	UC6411
読み込み速度　＊	CD-ROM/R：最大 24 倍速、CD-RW：最大 16 倍速
書き込み速度	CD-R　：最大 24 倍速 CD-RW：最大 10 倍速 (High Speed CD-RW 媒体使用時) 最大 4 倍速 (1 ～ 4 倍速 CD-RW 媒体使用時)
読み込み方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／ 電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz（± 3dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	LED
バッファメモリー	2MB
転送レート (Read)	CD-ROM/R：最大 3600KB/s、CD-RW：最大 2400KB/s
転送レート (Write)	CD-R：最大 3600KB/s,CD-RW：最大 1500KB/s
質量	約 250g
推奨ディスク	CD-R：　太陽誘電 (株) 製、TDK(株) 製、 三井化学 (株) 製、三菱化学 (株) 製、 (株) リコー製、日立マクセル (株) 製 CD-RW：三菱化学 (株) 製、(株) リコー製

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

・ CD-R
・ CD-RW
・ CD-DA(オーディオ CD)
・ CD-ROM(mode1、mode2)
・ CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
・ PhotoCD(シングル / マルチセッション)
・ CD-EXTRA(CD-Plus)
・ VIDEO CD

重要

◎ **使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。**

◎ **CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。**

◎ **推奨ディスク以外のディスクを使用すると書き込みエラーが発生することがあります。**

DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブの仕様

項目	仕様
形名	UC6421
読み込み速度 ＊	DVD-ROM ：最大 8 倍速 CD-ROM ：最大 24 倍速
書き込み速度	CD-R ：最大 24 倍速 CD-RW：最大 10 倍速 (High Speed CD-RW 媒体使用時) 最大 4 倍速 (1 ～ 4 倍速 CD-RW 媒体使用時)
読み込み方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	マニュアルローディング (トレー式) ／ 電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz(± 3dB)
出力チャンネル	2ch
バッファメモリー	2MB
転送レート（Read）	DVD-ROM ：最大 10800KB/s CD-ROM ：最大 3600KB/s
転送レート（Write）	CD-R ：最大 3600KB/s CD-RW ：最大 1500KB/s
質量	約 240g
推奨ディスク	CD-R ： 太陽誘電 (株) 製、三井化学 (株) 製、 三菱化学 (株) 製、(株) リコー製、 日立マクセル (株) 製 CD-RW ：三菱化学 (株) 製、(株) リコー製

＊ ディスクの回転振動が大きい場合や高速での読み込みが困難な場合は、自動で回転速度を落とします。

■対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

・ CD-R
・ CD-RW
・ CD-DA(オーディオ CD)
・ CD-ROM(mode1、mode2)
・ CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
・ PhotoCD(シングル / マルチセッション)
・ CD EXTRA(CD-Plus)
・ VIDEO CD
・ DVD-ROM
・ DVD-R
・ DVD-RAM
・ DVD-VIDEO

重要

◎ 使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。
◎ CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。
◎ 推奨ディスク以外のディスクを使用すると書き込みエラーが発生することがあります。

FD の仕様

■2HD

容 量	1.44MB	1.25MB
トラック数／面	80	77
セクター長（バイト）	512	1024
セクター数／アロケーションユニット	1	1
リザーブセクター数	1	1
FAT 数	2	2
ルートディレクトリー登録総数	224	192
総セクター数	2880	1232
メディア･ディスクリプタバイト	F0	FE
セクター数／ FAT	9	2
セクター数／トラック	18	8
ヘッド数	2	2
隠しセクター	0	0
動作	R/W/F/B *	R/W *

■2DD

容 量	720KB
トラック数／面	80
セクター長（バイト）	512
セクター数／アロケーションユニット	2
リザーブセクター数	1
FAT 数	2
ルートディレクトリー登録総数	112
総セクター数	1440
メディア･ディスクリプタバイト	F9
セクター数／ FAT	3
セクター数／トラック	9
ヘッド数	2
隠しセクター	0
動作	R/W/F/B *

＊ 意味は次の通りです。
R：読み込み可能、W：書き込み可能、F：フォーマット可能、
B：FD にシステムがある場合、その FD からのパソコンの立ち上げ可能

重 要

◎ 特殊なフォーマットの FD は使用できないことがあります。

◎ 弊社製以外のパソコンでフォーマットした FD は、読み書きができないことがあります。

◎ 2020 シリーズ、elles シリーズなど日立オフィスコンピュータ及び B16､B32 でフォーマットした FD は使用できません。

◎ Windows XP では、2DD の FD はフォーマットできません。

ヒント

★ USB FDD はオプション品です。

ドライブの使用について

CD/DVD ドライブ、FDD(以下、まとめてドライブ) と、それらのディスクの使用について説明します。

ドライブの取り扱い

- ドライブ使用中に振動を与えないでください。データを正しく読めないことがあります。
- パソコンの電源を切るときは、必ずディスクを取り出してからにしてください。ディスクを内蔵ドライブに入れたまま誤ってパソコンの電源を切ったときは、再び電源を入れて取り出してください。
- ディスク強制イジェクトスイッチを使うときは、内蔵ドライブの内部に異物が入らないようにしてください。
- ディスクが偏重心している場合（ラベルをはっている場合など）、ドライブの振動が通常より大きくなることや、読み取りスピードが遅くなることがあります。
- パソコンの電源を切ったり、ソフトウェアリセット ([Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま [Delete] キーを押す) を行うときは、ドライブのアクセスランプが消えてから行ってください。
- ドライブのアクセスランプの点灯、点滅中に電源を切ったり、ソフトウェアリセットを行うと、ドライブが壊れることがあります。
- ドライブは、5 〜 35 ℃の温度環境で使用できますが、長くお使いいただくためには 30 ℃以下の場所でお使いください。
- ドライブの使用中に強い衝撃を与えないでください。
- ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレーを開けないでください。
- トレーの中に異物を入れないでください。ドライブが破損し、故障の原因になります。
- CD-R/RW ドライブ内蔵モデルの場合、CD-R/RW を書き込み中に傷や汚れを検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- FDD など、データの転送速度が遅いディスクドライブから CD-R や CD-RW に書き込みを行うときは、テスト書き込みを行ってください。
- CD-R/RW ドライブ内蔵モデルの場合、CD-R や CD-RW にデータを書き込む時は、ほかのアプリケーションを終了してください。書き込み中も、ほかのアプリケーションを立ち上げないでください。データが壊れることがあります。
- WAVE ファイル、AVI ファイルなどの音声を再生中に、FD に書き込み、読み込みを行うと音声が繰り返して再生されることがあります。
- MS-DOS プロンプトやコマンドプロンプトで、1.25MB の FD は使用できません。Windows でお使いください。
- FDD の場合、未フォーマットなどのディスクに対してアクセスを行うと、ディスクを認識するまでに時間がかかります。このため、フォーマットに時間がかかることがあります。動作は正常ですのでしばらくお待ちください。

ディスクの取り扱い

- ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
- ディスクは高温な場所に保管しないでください。
- ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
- ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
- ディスクにラベルなどをはると、ドライブ内での回転が不安定になり故障の原因になります。
- お子さまがディスクを傷つけたりしないよう、ディスクはお子さまの手の届かないところに保管してください。
- CD-RW の書き換え可能回数は 1000 回です。1000 回以上使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。

FD の取り扱い

- FD のシャッター部は開けないでください。内部の磁性面が汚れると使えなくなります。
- 磁石やスピーカーなどの強い磁界を発生するものに FD を近づけると、記録したデータが消去するおそれがあります。
- FD は次のような場所に保管してください。
  保管温度：4 ℃～ 53 ℃
  保管湿度：10 ～ 90%Rh(結露しないこと)
  最大湿球温度：25 ℃
- FD ラベルは正しい位置にはってください。ラベルを替えるときは、重ねばりをしないでください。
- FD は消耗品です。同じ FD を長期間使用しないでください。
- 大切なデータは必ずバックアップを取ってください。また、バックアップ FD はバックアップ以外の目的に使わないでください。

その他の周辺機器の仕様

メモリーボードの仕様

項目	仕様	
形名	MK7133	MK7259
容量	128MB	256MB
パリティ	なし	
DRAM タイプ	SDRAM、PC133	
DIMM タイプ	SO-DIMM 144 ピン	
電源電圧	3.3V	

バッテリーの仕様

項目	仕様	
形名	AB6600	AB6610
平均容量	3600mAh	
公称電圧	10.8V	

マウスの仕様

項目	仕様
形名	KM5430
外形寸法	62mm(W) × 120.8mm(D) × 37.5mm(H)
質量	約 120g
ケーブル長	約 1000mm
インタフェース	USB 準拠

ヒント

★ 周辺機器の使用環境はパソコンと同じです。

オプション一覧表

パソコンに増設または接続できるオプションを次に示します。
オプション機器は随時、生産中止、新製品発表などがありますので
ご購入の際は、営業などにお問い合わせください。

分類	品名	形名	仕様
ディスプレイ	ディスプレイ装置	DC5201	15型カラーマルチスキャン
		DC7104	17型カラーマルチスキャン
		DC3622	22型カラーマルチスキャン
		DC3623	22型カラーマルチスキャン
入力装置	テンキーボード	KB3450	USB、17キー USB IF付き
	マウス	KM5430	USB、2ボタン ホイール付き
	Link Stick	KX1100	ハンドイメージスキャナ USB I/F
メモリー	メモリーボード	MK7133	128MB、SDRAM SO-DIMM、PC133
		MK7259	256MB、SDRAM SO-DIMM、PC133
アクセサリー	ACアダプター	AP6600	ACコード添付
	バッテリー1	AB6600	リチウムイオン
	バッテリー2	AB6610	リチウムイオン
	ウェイトセーバー	AJ2100	
	スマートカード リーダ/ライタ	KC5700	外付け、USB I/F
	スマートカード リーダ/ライタ	KC7000	内蔵
	スマートカード	AZ2100	
	Bluetoothユニット	CL5000	内蔵
	Bluetooth USB アダプター	CL3100	Bluetooth Ver.1.1準拠 ＊1
ファイル装置 (外付)	増設光磁気ディスク装置	FM1643	640MB、SCSI-2 I/F (PCカードスロット1専用)
		FM2130	1.3GB、SCSI-2 I/F (PCカードスロット1専用)
	USB FDD	UF2231	USB I/F

分類	品名	形名	仕様	
ファイル装置 (内蔵)	CD-ROM ドライブ	UC6400	読み込み　最大 24 倍速	
	CD-R/RW ドライブ	UC6411	書き込み CD-R　：最大 24 倍速 CD-RW　：最大 4 倍速 High Speed CD-RW ：最大 10 倍速 読み込み CD-ROM ：最大 24 倍速 CD-RW　：最大 16 倍速	
	DVD-ROM&CD-R/RW マルチドライブ	UC6421	書き込み CD-R　：最大 24 倍速 CD-RW　：最大 4 倍速 High Speed CD-RW ：最大 10 倍速 読み込み CD-ROM ：最大 24 倍速 DVD-ROM：最大 8 倍速	
	マルチメモリーカードリーダ / ライタ	CZ3200	コンパクトフラッシュ、 SD カード、マイクロドライブ、 マルチメディアカード、メモリースティック、 スマートメディア対応	
PC カード	無線 LAN カード	CN3400	IEEE802.11b 準拠	＊2
	5GHz 無線 LAN カード	CN5420	IEEE802.11a 準拠	＊2
ケーブル	パラレル変換ケーブル	AT1120		
	携帯電話接続ケーブル	PC-LM3010	USB I/F	
	PHS 接続ケーブル	PC-LM3020	USB I/F	
	H"(AirH" 対応) 接続ケーブル	PC-LM3030	USB I/F	
	CDMA1 接続ケーブル	PC-LM3040	USB I/F	

分類	品名	形名	仕様	
プリンター プリンター	シリアルドット プリンター	PD2080A	75 字 / 秒、136 桁	＊ 3
		PD2130	125 字 / 秒、136 桁	＊ 3
		PD2161	160 字 / 秒、136 桁	＊ 3
	水平インサーター プリンター	PD4080S	75 字 / 秒、136 桁	＊ 3
		PD4081	80 字 / 秒、136 桁	＊ 3
		PD4130A	130 字 / 秒、136 桁	＊ 3
		PD4180	180 字 / 秒、136 桁	＊ 3
	ラインプリンター	PN5200	280 行 / 分、136 桁	
		PN5400	500 行 / 分、136 桁	
		PN5600	800 行 / 分、136 桁	＊ 4
		PN5600P	800 行 / 分　パワースカッター モデル、136 桁	＊ 4
	モノクロページ プリンター	PL2170	16 枚 / 分、A4 モデル	＊ 3
		PL2560	22 枚 / 分、A3 モデル	＊ 3
		PL7350B	35 枚 / 分、A3 モデル、 2 段力セット	＊ 3
		PL7350T	35 枚 / 分、A3 モデル、 4 段力セット	＊ 3
		PL7450C	45 枚 / 分、A3 モデル、 コピー機能	＊ 3
		PL7450CF	45 枚 / 分、A3 モデル、 コピー /FAX 機能	＊ 3
		PL7450CN	45 枚 / 分、A3 モデル、 コピー / スキャナー機能	＊ 3
		PL7450FS	45 枚 / 分、A3 モデル、 コピー /FAX/ スキャナー機能	＊ 3
		PL7450C2	45 枚 / 分、A3 モデル、 コピー / 後処理機能	＊ 3
		PL7450CF2	45 枚 / 分、A3 モデル、 コピー /FAX/ 後処理機能	＊ 3
		PL7450CN2	45 枚 / 分、A3 モデル、 コピー / スキャナー / 後処理機能	＊ 3
		PL7450FS2	45 枚 / 分、A3 モデル、 コピー /FAX/ スキャナー / 後処理機能	＊ 3
	カラーページ プリンター	PK3000 PK3000N PK3500N	カラー 6 枚 / 分、 モノクロ 24 枚 / 分、 A3 モデル	
		PK2000 PK2000N PK2500N	カラー 6 枚 / 分、 モノクロ 24 枚 / 分、 A4 モデル	
		PK4700N	カラー 29 枚 / 分、 モノクロ 29 枚 / 分、A3 モデル	
	カラーページ プリンター	PK4800	カラー 12.5 枚 / 分、 モノクロ 50 枚 / 分、A3 モデル	＊ 3
	連続紙ページ プリンター	PL9120	1650 行 / 分	

分類	品名	形名	仕様	
シリアルドットプリンター/水平インサーター/ラインプリンター/連続紙ページプリンター用オプション	イージーセットフィーダー	AS40801S	PD4080S 用	＊5
	トラクターユニット	PG4080S	PD4080S 用	
		PG4081	PD4081 用	＊6
		PG4130	PD4130A/4180 用	＊7
	自動給紙機構	AS40802S	PD4080S 用	
		AS4081	PD4081 用	＊6
		AS4130	PD4130A/4180 用	＊7
		AS1061	PD2080 用	
		AS3130	PD2130 用	
		AS2161	PA2161 用	
	LAN アダプター	PB20101	PD2080/2130/2161/4080S/4081/4130A/4180 PN5200/5400/5600/5600P/ PL9120 用	
		PB20111	PD2080A/2130/2161/4081/4130A/4180 PN5200/5400/5600/5600P 用	
		PB20301	PD2080A/2130/2161/4080S/4081/4130A/4180 PN5200/5400/5600/5600P PL9120 用	＊14
	防振テーブル	AD10100	PD2080A/2130/2161/4080S/4081/4130A/4180 用	
ページプリンターオプション	ペーパーフィーダー	PF2170	PL2170 用、250 枚給紙機構	＊8
		PF25501	PL2560 用、250 枚給紙機構	＊9
		PF25502	PL2560 用、500 枚給紙機構	＊9
	両面ユニット	PW2550	PL2560 用	
		PW74501	PL7350x/7450x 用、手差しトレイ付	
	拡張メモリー	PM27001	PL2560 用、32MB	＊10
		PM27002	PL2560 用、64MB	＊10
		PM74501	PL7350x/7450x/7450xx2 用、128MB	
	LAN ボード	PB20002A	PL2560 用、100/10BASE	＊11
		PB20011A	PL2560 用、100/10BASE、C/S560 対応	＊11
		PB2170	PL2170 用、100/10BASE	
	KEIS フォントカード	PB20702	PL2560 用、C/S560 対応	
	内蔵 HDD	PA2560	内蔵増設 HDD、6GB	＊11、＊12
		PA74502	PL7350x/7450x/7450xx2 用、5GB	
	PS 拡張キット	PA74503	PL7350x/7450x/7450xx2 用、PostScript 用キット、モリサワ 2 書体付	

分類	品名	形名	仕様
ページプリンターオプション	Desktop Doccument Manager	PV74502	PL7350x/7450x/7450xx2 用、ドキュメント管理ツール、追加 5 ライセンス
	マルチファンクションコントローラー	PB73501	PL7350T 用、マルチファンクション対応コントローラー
	マルチファンクションキット	PV7450C	PL7350T 用、コピー拡張キット
		PV7450CF	PL7350T 用、コピー /FAX 拡張キット
		PV7450CN	PL7350T 用、コピー / スキャナー拡張キット
		PV7450FS	PL7350T 用、コピー /FAX/ スキャナー拡張キット
カラーページプリンターオプション	ペーパーフィーダー	PF4110	PK3000/3000N/3500N 用、500 枚給紙機構
		PF4120	PK2000/2000N/2500N 用、500 枚給紙機構
		PF47001	PK4700N 用、550 枚給紙機構
		PF47002	PK4700N 用、550 枚× 2 段給紙機構
		PF47003	PK4700N 用、3000 枚給紙機構
	大容量キャビネット	PF48001	PK4800 用、2200 枚給紙機構
	両面ユニット	PW4110	PK3000/3000N/3500N 用、両面印刷機構
		PW4120	PK2000/2000N/2500N 用、両面印刷機構
		PW4700	PK4700N 用、両面印刷機構
	増設メモリー	PM41101	PK3000/3000N/3500N/2000/2000N/2500N 用、64MB
		PM42101	PK3500N/2500N 用、128MB
		PM47001	PK4700N 用、64MB
		PM47002	PK4700N 用、128MB
		PM48001	PK4800N 用、64MB
		PM48002	PK4800N 用、128MB
	LAN アダプター	PB40002	PK3000/2000 用、100/10BASE
	増設 HDD	PA42101	内蔵増設用 HDD、フォント増設用
		PA47001	PK4700N 用、プリンター台
	プリンター台	AD4110	PK3000/3000N/3500N 用、プリンター台
		AD4700	PK4700N 用、プリンター台
	標準用紙カセット	PA41101	PK3000/3000N/3500N 用
		PA41201	PK2000/2000N/2500N 用
	LFU カセット	PA41103	PK3000/3000N/3500N 用
		PA41203	PK2000/2000N/2500N 用
	A4 カセット	PA41102	PK3000/3000N/3500N 用
	PostScript ソフトウェアキット	PA48002	PK4800 用、PostScript 用キット、モリサワ 2 書体付

分類	品名	形名	仕様	
カラーページプリンターオプション	メールボックス / ソーター	PH48001	PK4800 用、10 ビン /1000 枚排紙機構	
	メールボックス / フィニッシャー	PH48002	PK4800 用、10 ビン /1000 枚排紙 / ホチキス止め機構	
	プリンスキット	PG48001	PK4800 用、床面補強版	
		PG48002	PK4800 用、床面補強版	
		PG48003	PK4800 用、床面補強版	
	地震対策キット	PG48005	PK4800 用、地震対策キット	
LAN 機器	無線 LAN アクセスポイント	CN3300	IEEE802.11b 準拠 (最大 11Mbps)	
	5GHz 無線 LAN アクセスポイント	CN5410	IEEE802.11a 準拠 (最大 54Mbps)	
	TP トランシーバー	LAN-LNTTF		
	リピーター	HN-1312-12		
	マルチリピーター (HUB)	HN-1332-08B		
		HN-1332-16		
		HN-1332-16A		
		HN-1352-08		
		LAN-LNRP8A		
		LAN-LNRP16A		
		LAN-LNFRP8A		
	SNMP 付マルチポートリピーター	LAN-LNRP12		
	HUB 管理ユニット	HN-F1332-1		
	管理機能内蔵 HUB	HN-1342-08		
		HN-1342-16		
		HN-1342-16A		
		HN-1362-08		
	スイッチング HUB	PC-BH7500		
	HS30	HN-1801-08		
	HS30	HN-1801-16		
	HS50	HN-1805-10		
	HS100	HN-1811-10		
	HS100	HN-1811-10A		
	HS100	HN-1811-10F		
	HS150	HN-1815-10		＊ 13
	HS150	HN-1815-10A		＊ 13
	HS150	HN-1815-20		＊ 13
	HS150	HN-1815-20A	HS150	
	HS150	HN-1815-31	HS150	
	HS150	HN-1815-32	HS150	
	HS200	HN-1821-10A		
	HS200	HN-1822-10A		

分類	品名	形名	仕様	
LAN機器	HS200	HN-F1821-12		
	HS200	HN-F1821-31A		
	HS200	HN-F1821-32E		
		LAN-LNF2SW6A		＊13
		LAN-LNFR2SWA		
		LAN-LNFR8SWA		＊13
ケーブル	プリンターケーブル	LP1101	PD2080A/2130/2161/4080S/4081/4130A/4180 PL2170/2560/7350x/7450xx/7450xx2/PK2000/2000N/2500N/3000/3000N/3500N/4700N/4800用、1.8m	
		LP20301	PB20301用、変換コネクター	＊14
		HT-4996-66E	PN5200/5400/5600/5600P用、2.5m	
		HT-4996-66H	PL9120用、5m	
	モデムケーブル	LM1111	4.0m	
		LM1100	2.0m	
	RS-232-C機器接続ケーブル	LR1111	4.0m	
		LR1100	2.0m	
	SCSIケーブル	LE3080		
	マルチリピーター接続ケーブル	HN-F1332-16	HUB16を接続	
	TPケーブル（3m）	LNW03Q5		
	（6m）	LNW06Q5		
	（15m）	LNW15Q5		
	（30m）	LNW30Q5		
	（100m）	LNW100Q5		

この一覧表以外のオプションは、使用しないでください。正しく動かないことがあります。

＊1：Windows XP、Windows 2000モデルでのみサポートしています。Windows 98モデルではご使用できません。
＊2：無線LAN内蔵パソコンではご使用できません。
＊3：プリンターケーブルや拡張メモリーなどとのセット品もあります。
＊4：通常の2極電源とは異なるため、別途、電源工事が必要です。
＊5：イージーセットフィーダー接続時は、自動給紙機構の前方接続または連続用紙の前方給紙はできません。
＊6：トラクターユニットと、自動給紙機構をプリンターの後方に同時接続することはできません。
＊7：トラクターユニットと、自動給紙機構をプリンターの前方に同時接続することはできません。
＊8：1段のみ増設可能です。
＊9：2段まで増設可能です。ただし、５００枚ペーパーフィーダーは最下段のみで使用可能です。
＊10：拡張メモリーは1つのみ接続可能です。
＊11：LANボードと内蔵HDDは、いずれか1つの選択となります。
＊12：拡張メモリーの追加が必要です。
＊13：100BASE-TX/10BASE-T共用です。それ以外のLAN機器は10BASE-T専用です。
＊14：ラインプリンター、連続紙ページプリンターに接続するには、プリンターケーブルPC-LP20301が必要です。

重要事項

ここでは、パソコンおよび周辺機器の使用環境、使用方法における制限な内容をまとめてあります。

パソコンおよび周辺機器を使用する環境について

- 寒い場所では、室温を動作時周囲温度まで上げたあと 20 ～ 30 分経過してからお使いください。
- 暑い場所では、しばらく空調などを使用し室温が一定になってからお使いください。
- 直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
- ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
- 極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
- 腐食性ガスや塩分を多量に含む空気などは、パソコンおよび周辺機器の表面を化学的に腐食させます。そうなると、電子部品の接触抵抗が増加したり、可動部品の構造がもろくなり、パソコンおよび周辺機器の信頼性が著しく低下します。そのため、パソコンや周辺機器は腐食性ガス（ 特に亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアガスなど）や塩分を多量に含む空気などが発生しない場所に設置してください。
- パソコンを使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。
  このときは、一度パソコンの電源を切って立ち上げ直してください。

参照

最適な湿度について→『パソコンを準備する』付録の「パソコン仕様一覧」

パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて

- HDD の故障に伴うデータやアプリケーションの破損については、補償いたしかねます。あらかじめご了承ください。
- Windows の立ち上げ中や使用中に強制終了すると、次回立ち上げ時にチェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がりますが、異常がある場合は HDD をフォーマットしないとパソコンが使用できない場合もあります。
- 電源を切ってから再び電源を入れるまでに、必ず 20 秒以上お待ちください。連続して電源を入り切りする（瞬時停電も含む）と保護機能が働くことがあります。このときは、一度電源を切って、AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜きます。20 秒以上経過してから AC アダプターの電源プラグをコンセントに差し込み、電源を入れてください。
- パソコンを立てかけて置くと、倒れた場合に壊れることがあります。絶対に立てかけないでください。
- パソコンは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。

・磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけると、パソコンおよび周辺機器の故障の原因になります。
・ディスプレイを背中合わせに設置したり並べて配置する場合は、互いに少し離して配置してください。
・マウスは耐外来ノイズ性能が劣ります。マウスが誤動作する場合は、パソコンおよびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付きＯＡタップからとることをお勧めします。
・マウスの内部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとボールがなめらかに動かなくなります。
・Windows 98 で MS-DOS プロンプトを使用する場合は英語環境にしないでください。正しく動作しないことがあります。
・電源スイッチを一度 OFF にしたら、再度 ON にするのは必ず 20 秒以上経過してからにしてください。20 秒以上経過しないと、パソコンが立ち上がらないことがあります。
・煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでパソコンを完全に包んでください。
・じゅうたんのある部屋でパソコンを使用したり、パソコンの使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、パソコンおよび周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。

通信について

・通信中や、HDD、CD/DVD ドライブ、FDD の読み込み、書き込み中には、パソコンの電源を切ったりソフトウェアリセットを行わないでください。

ディスプレイについて

・表示するパターンによっては、微妙な輝点 (指定の色と関係なく光る) や黒点 (指定の色が表示できない) が見えたり、罫線や文字の一部が欠けることがあります。ただし、輝点や黒点の数については、弊社の規格によって制限しています。ご使用中、著しく増加することはありません。
・液晶の特性上、表示するパターンによっては、画面がちらつくことがあります。
・長時間同一パターンを表示していると、画面が変ったときにも前のパターンが薄く見えることがあります。これは時間が経過すると消えます。
・パソコンの使用温度範囲は、5 ℃～ 35 ℃です。5 ℃未満の環境でご使用になると画面が暗くなったり、表示できなくなったりします。5 ℃以上のところで、電源を入れ直してください。
・長時間継続してご使用になると、液晶の温度上昇によりコントラストに少し変ったムラが出ることがあります。これは温度が下がると元に戻ります。
・ディスプレイ表面に水滴や指紋が付いたときは、すぐに拭き取ってください。
・多色表示を実現させるため、また液晶の構造上、上方向から見えにくくなっています。ディスプレイ部を見やすい角度にしてご使用ください。
・パソコンのディスプレイの最大領域を越えて、外付けのディスプレイに同時表示すると、パソコンのディスプレイには表示されません。
・節電機能に移行するとき、表示が一瞬、乱れることがあります。
・外付けディスプレイを取り外す場合、画面の解像度を 1024 × 768 以下に設定してから取り外してください。Windows が正常に立ち上がらなくなります。

HDD の容量表示について

HDD は、高密度な磁気ディスクにデータを保存する精密機器です。磁気ディスクには微小な欠点があり、これらの領域にはデータを書き込まないようになっています。
HDD のエラーチェックプログラムを実行すると、「不良セクタ」もしくは「スキップセクタ」が表示されることがあります。これは、データを書き込まない領域を表示しているだけで、HDD の不良ではありません。
取り付けられている内蔵 HDD の容量と、エラーチェックプログラム実行時に表示される「全ディスク容量」との関係は次の通りです。内蔵 HDD が複数のパーティションに分割されている場合は、各領域の合計値です。この場合、合計値が次の値以下になる場合があります。なお、＊は『パソコンを準備する』付録の「パソコン仕様一覧」の「HDD」の項目をご参照ください。

内蔵 HDD 容量	全ディスク容量の表示
＊ GB	＊× 1000000000 バイト以上

バッテリーの使用について

・お買い求め直後、または長時間バッテリーを使わなかった場合、満充電にしても使用可能時間が短いことがあります。完全放電と充電を数回繰り返すと元の使用可能時間に戻ります。
・バッテリーは湿気の少ない涼しい場所で保管してください。
・バッテリーには寿命があります。使用可能時間が短くなってきたら、新品と交換してください。
・バッテリーの金属部分には素手で触れないでください。
・バッテリーは次のことに注意してお取り扱いください。取り扱いを誤ると、液漏れ、過熱・破裂・発火し、火災やけがの原因になります。
  ・電池の＋－端子間をショートさせない。
  ・火中に投入したり、60 ℃以上に加熱しない。
  ・落下などの強い衝撃を与えない。
  ・外装パックが著しく破損するような衝撃を与えない。
  ・濡れた布で金属部分を拭かない。
  ・水に濡らしたり、濡れた手で触れない。
  ・分解しない。
  ・火のそばや、炎天下、暖房器具の近くなどで使用、放置、充電しない。
  ・指定外のバッテリーを使用しない。
  ・液漏れしている場合には、素手で触れない。万一付着した場合は、流水で洗い流す。
・使用済みのバッテリーは、希少資源の有効利用のために、端子または接続コードにテープをはるなどの処置をしてから、充電式電池リサイクル協力店に持参していただくか、お問い合わせ先へ処分方法をお問い合わせください。
・定期的に完全放電を行わないと、バッテリーでの動作時間が短くなり、バッテリ低下アラームが早く動作することがあります。

さくいん

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。
それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

・Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
・その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

ハードウェアを使いこなす

初 版　2002 年 11 月

株式会社　日立製作所
インターネットプラットフォーム事業部
〒 243-0435 神奈川県海老名市下今泉 810 番地
お問い合わせ先：HCA センタ 0120-2580-91

NS0403000-1

HITACHI FLORA 220W NS4

ハードウェアを使いこなす

HITACHI

NS0403000-1